
グラフで見る特別区（23区）

東京区部の特性

2003年11月

（財）特別区協議会 調査研究部 調査研究課

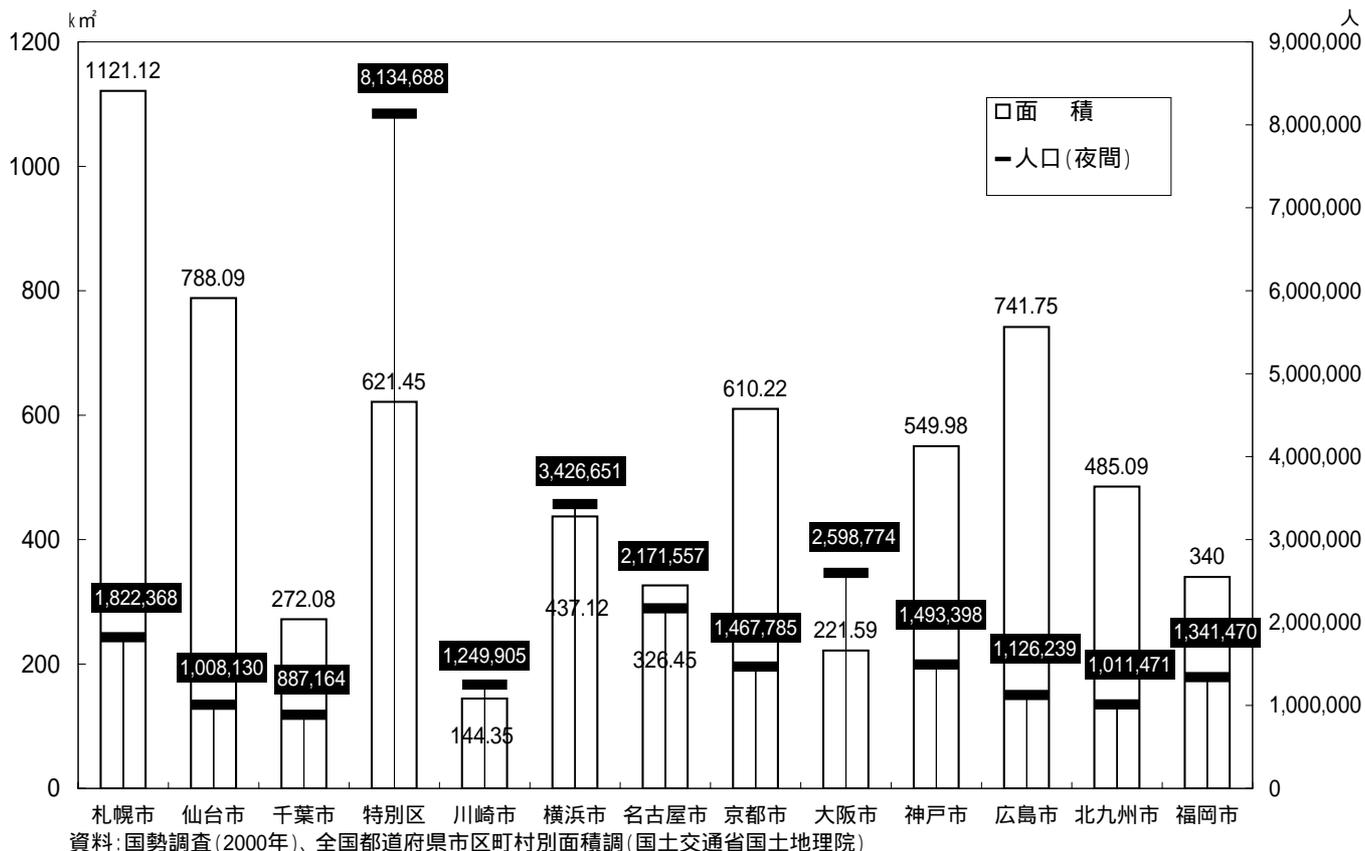
目 次

	頁
1 人口・面積	
1 - 1 面積と人口[大都市比較]	1
1 - 2 世帯数と一世帯当たりの人数[大都市比較]	1
1 - 3 三層人口[大都市比較]	2
1 - 4 外国人人口[大都市比較]	2
1 - 5 昼夜間人口[大都市比較]	3
1 - 6 昼夜間人口比率[大都市比較]	3
1 - 7 人口の自然増[大都市比較]	4
1 - 8 人口の社会増[大都市比較]	4
1 - 9 特別区の住基人口の推移	5
1 - 10 23区の人口と面積	6
1 - 11 23区の三層人口	6
1 - 12 23区の昼夜間人口	7
1 - 13 23区の昼夜間人口比率	7
1 - 14 23区の昼夜間人口密度	8
1 - 15 特別区の昼夜間人口予測	9
1 - 16 特別区への流入人口(通勤・通学)	9
2 財政	
2 - 1 歳入決算[大都市比較]	10
2 - 2 歳入決算構成比[大都市比較]	10
2 - 3 歳出決算(目的別)[大都市比較]	11
2 - 4 歳出決算(性質別)構成比[大都市比較]	11
2 - 5 特別区の決算規模推移	12
2 - 6 特別区の歳入歳出決算構成比	12
2 - 7 23区の歳入決算	13
2 - 8 23区の歳入決算構成比	13
2 - 9 23区の歳出決算(性質別)	14
2 - 10 23区の歳出決算(性質別)構成比	14
2 - 11 特別区の基金・区債推移	15
2 - 12 23区の基金・区債、区民一人当たり残高	15
2 - 13 23区の区税収入額比較	16
2 - 14 (試算)23区都税事務所別調整三税比較	16
2 - 15 (試算)市町村税収総額・一人当たり税収	17
3 その他	
3 - 1 公営賃貸住宅数[大都市比較]	18
3 - 2 種類別道路面積[大都市比較]	18
3 - 3 大学数[大都市比較]	19
3 - 4 鉄道駅数[大都市比較]	19
3 - 5 交通事故[大都市比較]	20
3 - 6 火災件数及び損害見積り額[大都市比較]	20
3 - 7 犯罪認知件数[大都市比較]	21
4 大阪市のデータ	
4 - 1 大阪市の面積と人口	22
4 - 2 大阪市の三層人口	22
4 - 3 大阪市の昼夜間人口	23
4 - 4 大阪市の昼夜間人口比率	23
4 - 5 大阪市の昼夜間人口密度	24
4 - 6 大阪市の人口と市税収入	25
4 - 7 大阪市への流入人口(通勤・通学)	25

1 人口・面積

1 - 1 面積と人口[大都市比較]

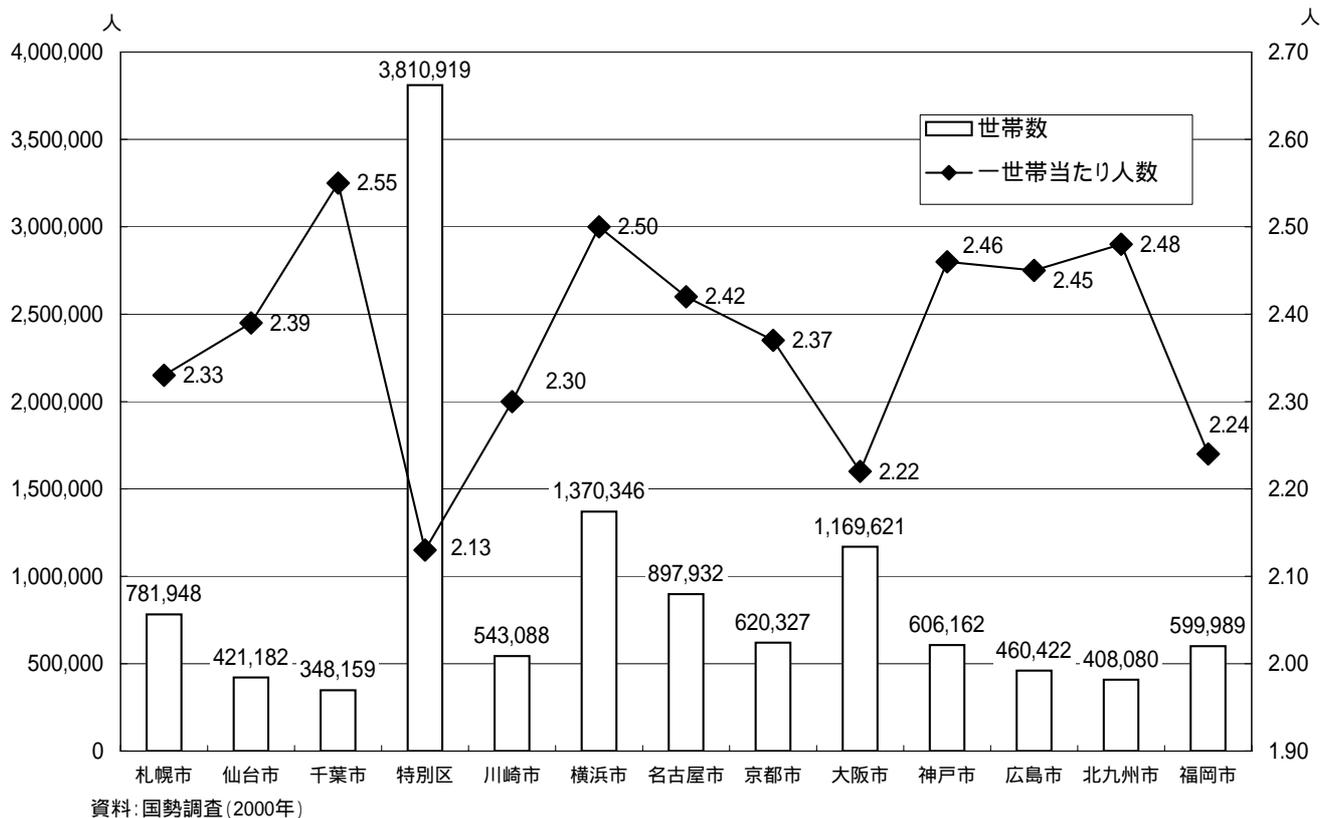
特別区全体で比較をすると、面積は4番目、人口は800万人を超え、2~4位の横浜市・大阪市・名古屋市の合計に匹敵する。なお、特別区は世界の都市でも10番目の人口規模を有している。



1 人口・面積

1 - 2 世帯数と一世帯当たりの人数 [大都市比較]

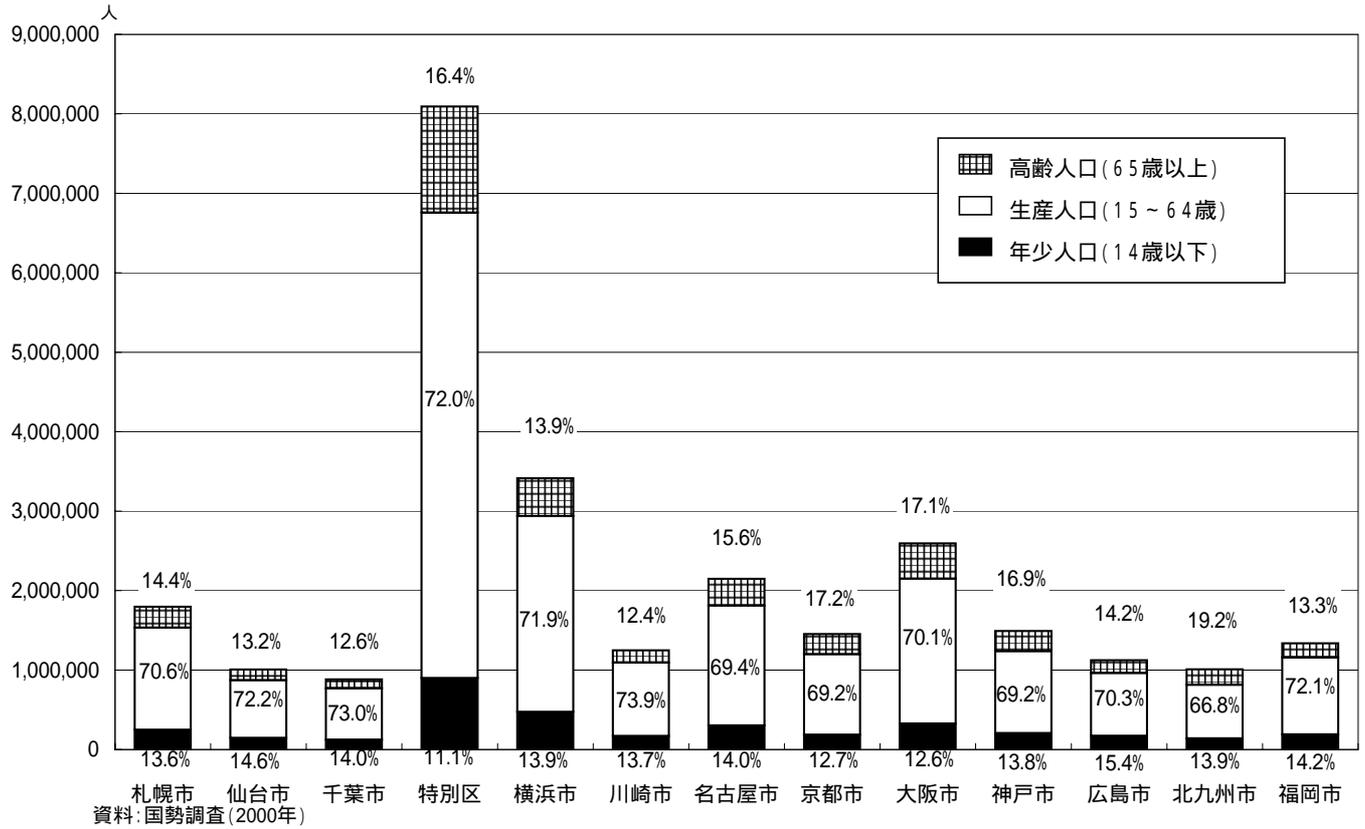
一世帯当たりの人数は、特別区が2.13人と最も少ない。



1 人口・面積

1 - 3 三層人口[大都市比較]

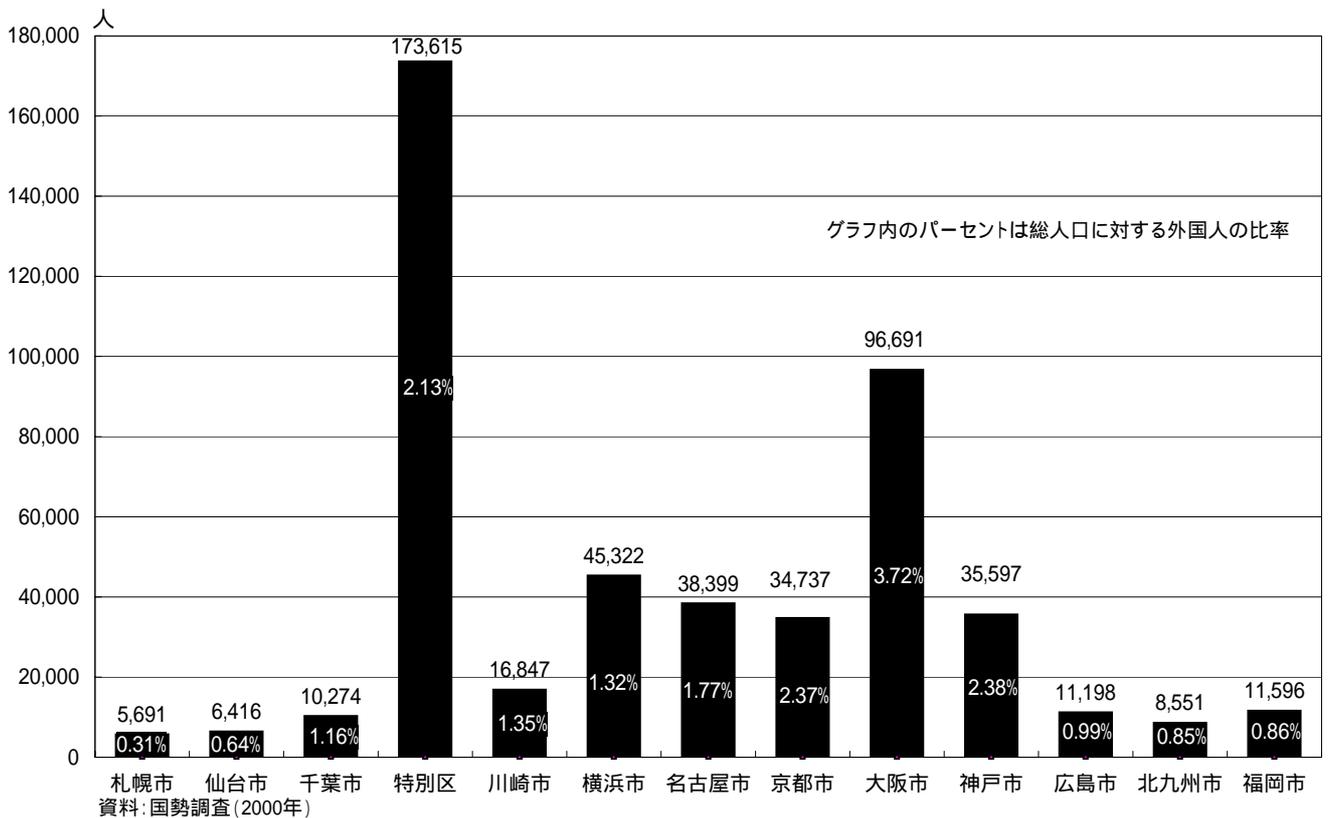
高齢者の比率では、北九州市(19.2%)、京都市(17.2%)、大阪市(17.1%)、神戸市(16.9%)に次いで特別区(16.4%)は5番目である。また、特別区の高齢者人口は134万人を超え福岡市(134万人)や川崎市(125万人)の総人口に匹敵する。



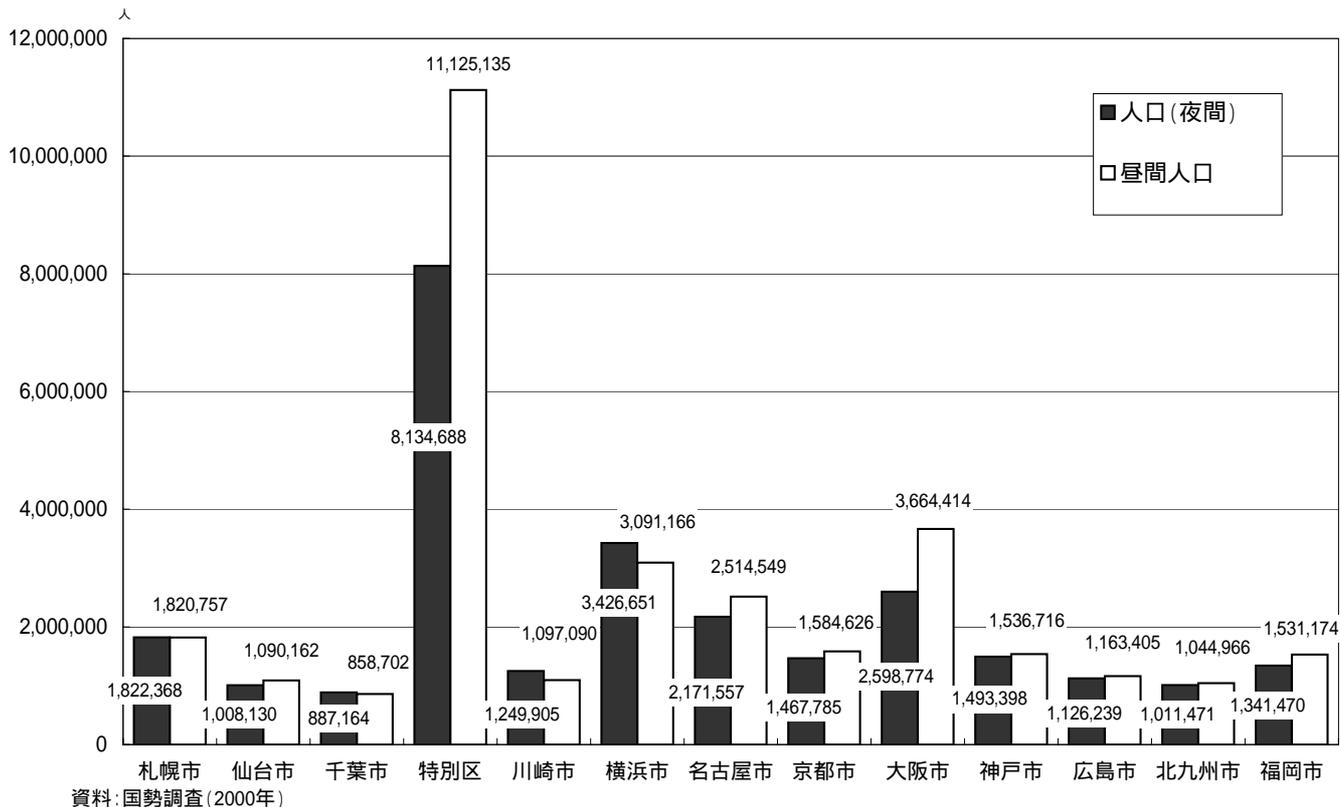
1 人口・面積

1 - 4 外国人人口[大都市比較]

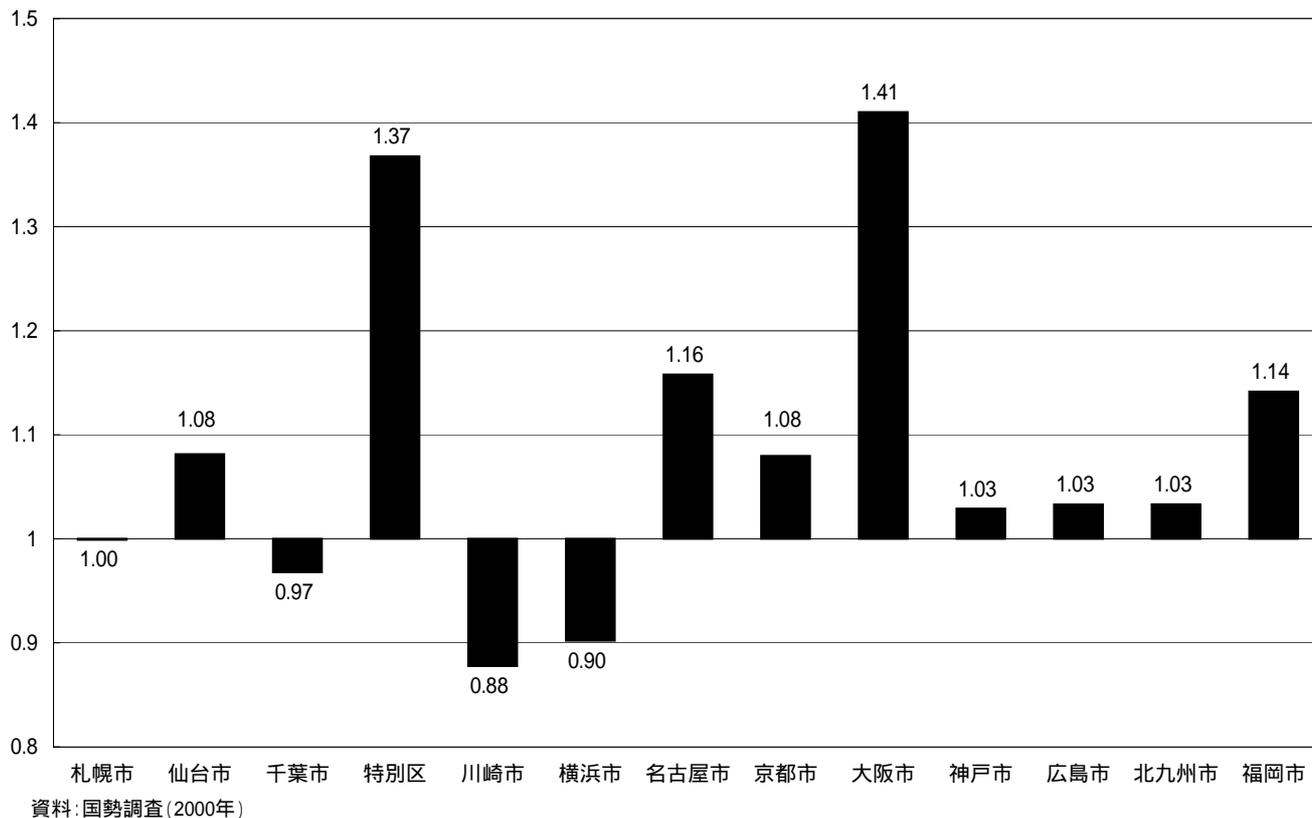
外国人の当該地域の総人口に対する比率では、大阪市(3.72%)、神戸市(2.38%)、京都市(2.37%)に次いで特別区(2.13%)は4番目である。



特別区は人口(夜間)813万人、昼間人口1113万人の巨大都市である。



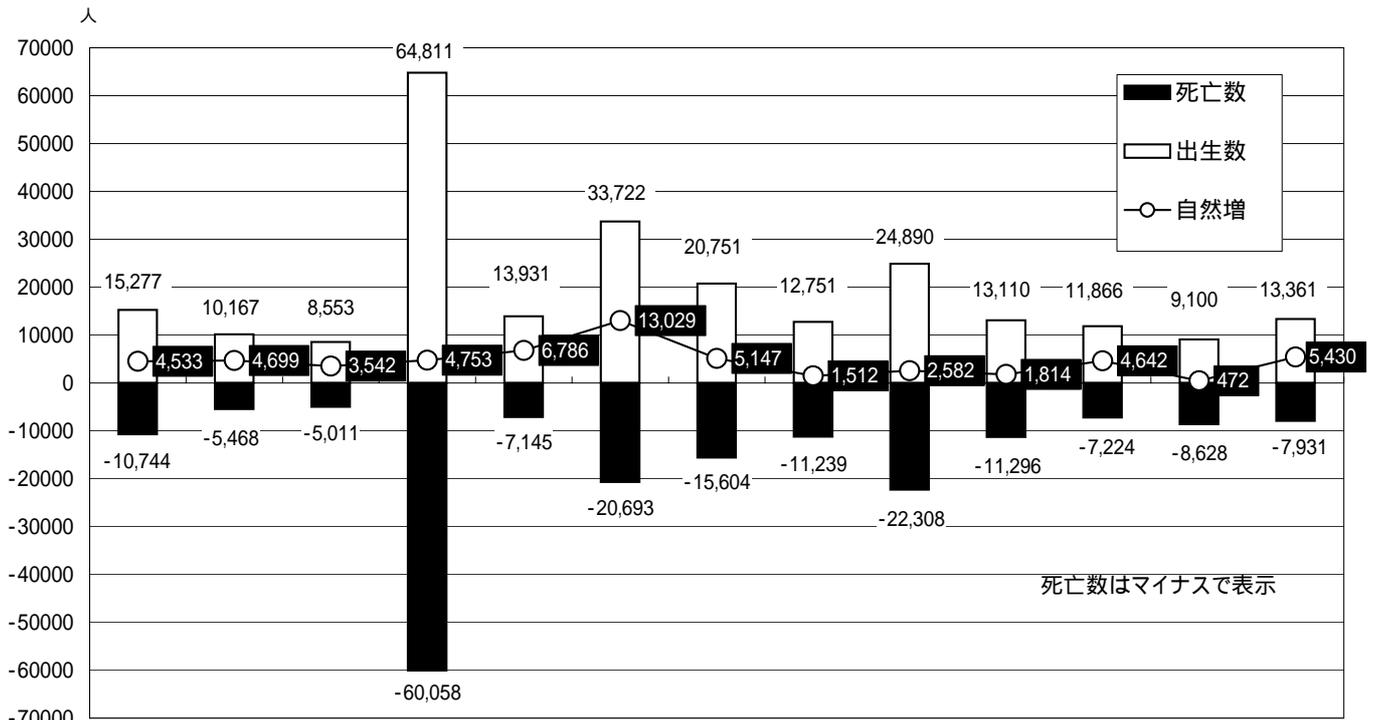
大阪市(1.41)と特別区(1.37)が、他の大都市と比較して突出している。



1 人口・面積

1 - 7 人口の自然増[大都市比較]

人口の自然増(出生数-死亡数)は、各都市ともプラスであるが、横浜市(13,029人)が最も多く、次いで川崎市(6,786人)福岡市(5,430人)の順。特別区は出生・死亡数は最も多いが、自然増数は5番目である。

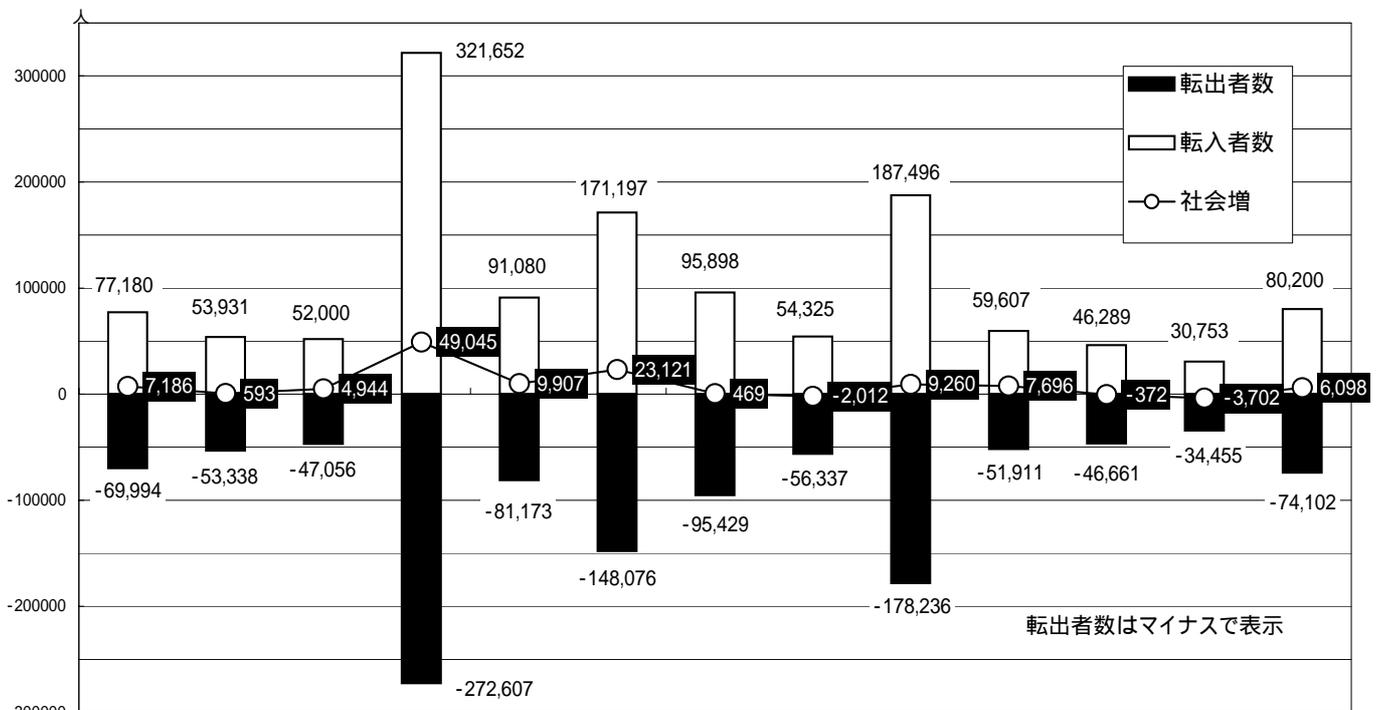


札幌市 仙台市 千葉市 特別区 川崎市 横浜市 名古屋市 京都市 大阪市 神戸市 広島市 北九州市 福岡市
資料: 大都市比較統計年表(2001年)

1 人口・面積

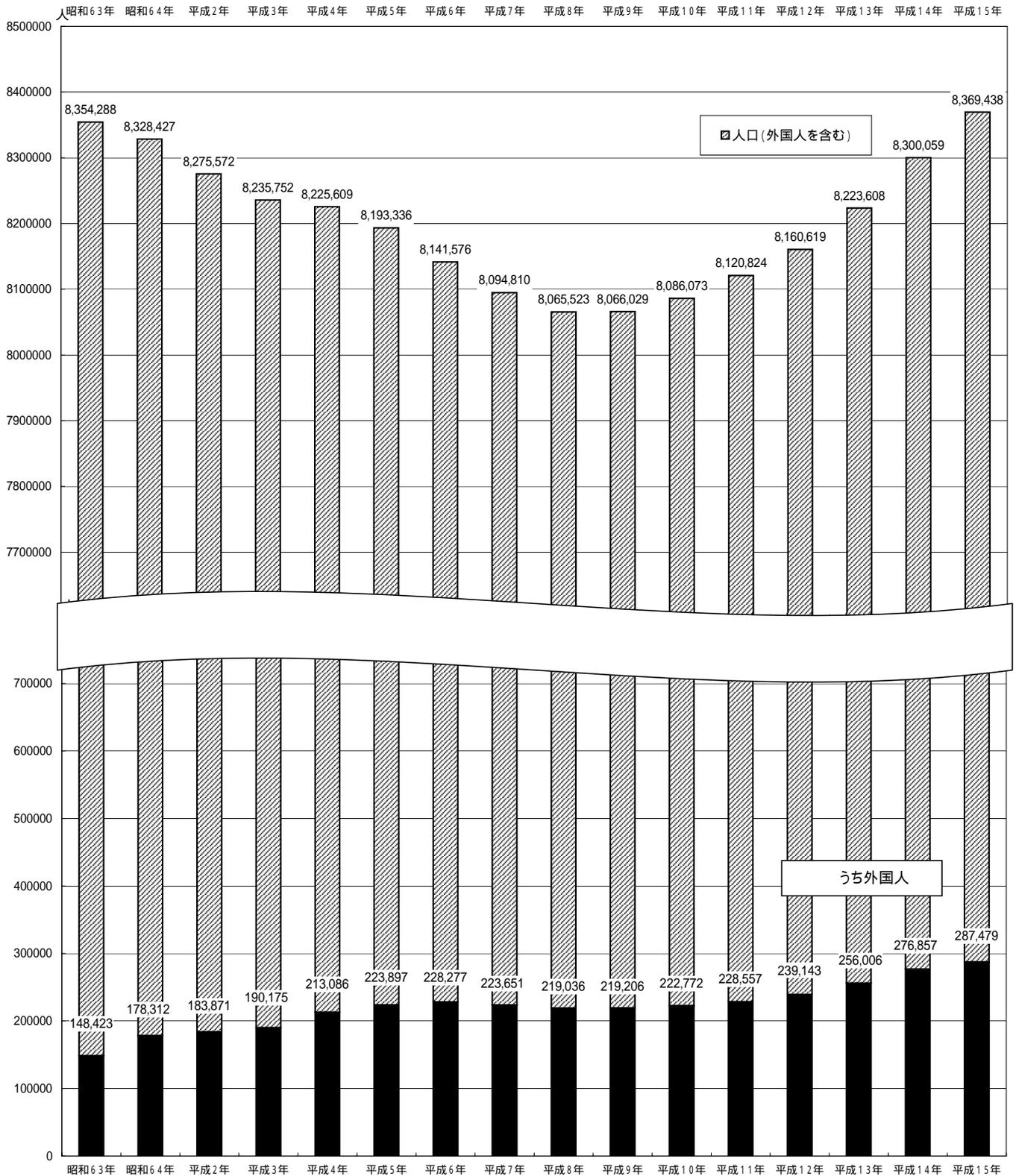
1 - 8 人口の社会増[大都市比較]

人口の社会増(転入者-転出者)は、特別区が49,045人と圧倒的に多い。特別区は転入・転出者を合計すると、約60万人が一年間で異動している。



札幌市 仙台市 千葉市 特別区 川崎市 横浜市 名古屋市 京都市 大阪市 神戸市 広島市 北九州市 福岡市
資料: 大都市比較統計年表(2001年)

特別区の人口は平成8年まで減少していたが、平成9年から増加に転じ平成15年現在で昭和63年の水準を越えている。外国人は上昇傾向にある。
 なお、時系列の変化を見るため住民基本台帳の人口を用いており国勢調査の数値とは一致しない。

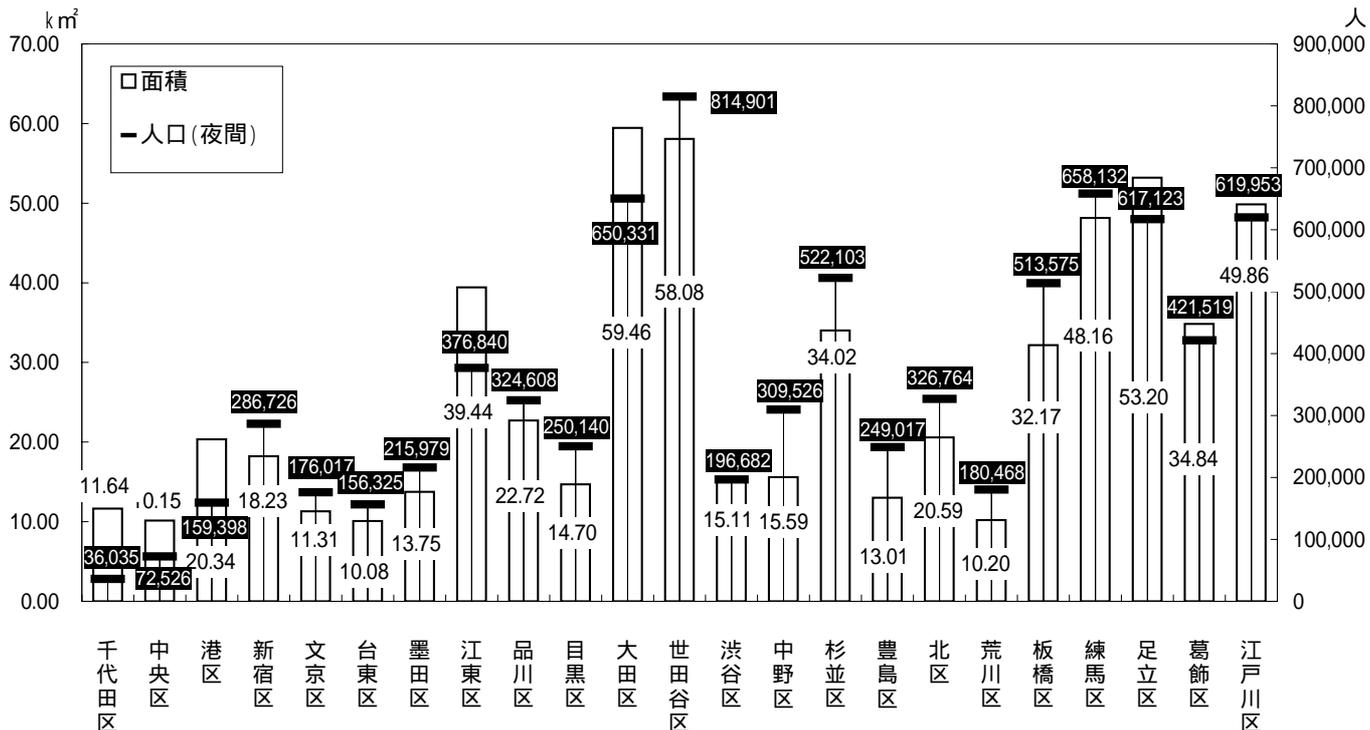


資料:住民基本台帳・外国人登録(1月1日現在)

1 人口・面積

1 - 10 23区の人口と面積

面積は大田区(59.46km²)が最も大きく、最も小さい台東区(10.08 km²)の5.9倍である。人口は世田谷区(814,901人)が最も多く、最も少ない千代田区(36,035人)の22.6倍である。

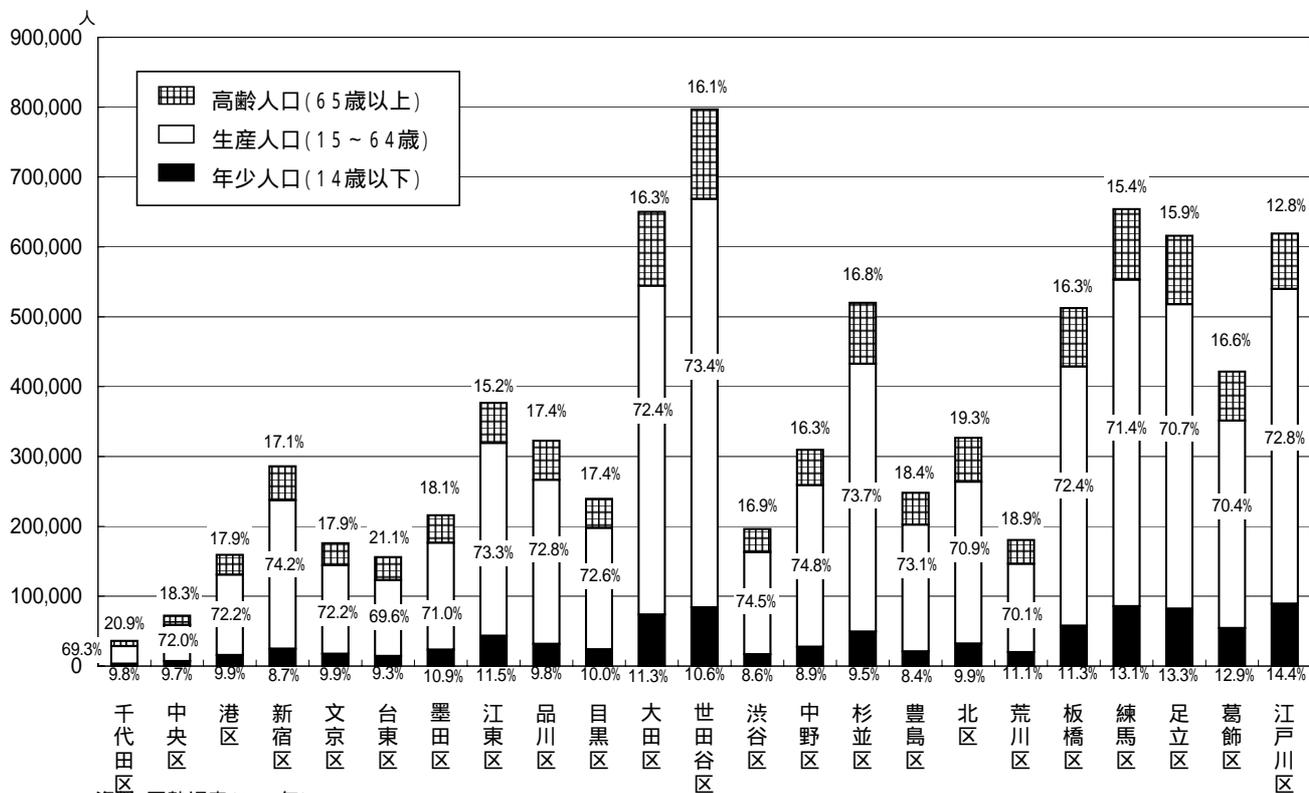


資料: 国勢調査(2000年)

1 人口・面積

1 - 11 23区の三層人口

高齢者人口比率が最も高いのは台東区(21.1%)で次いで千代田区(20.9%)、北区(19.3%)の順である。最も低いのは江戸川区(12.8%)である。年少人口比率のもっとも高いのは江戸川区(14.4%)で次いで足立区(13.3%)、練馬区(13.1%)である。最も低いのは豊島区(8.4%)である。

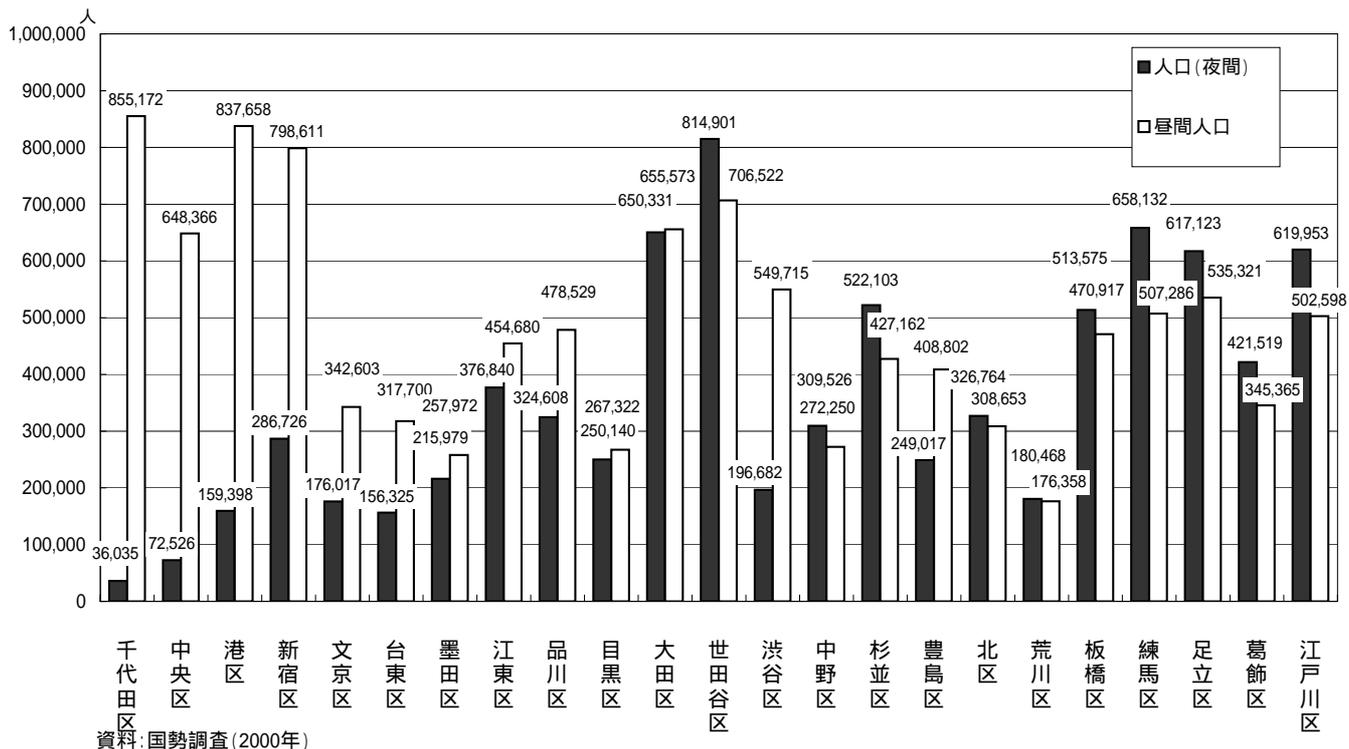


資料: 国勢調査(2000年)

1 人口・面積

1 - 12 23区の昼夜間人口

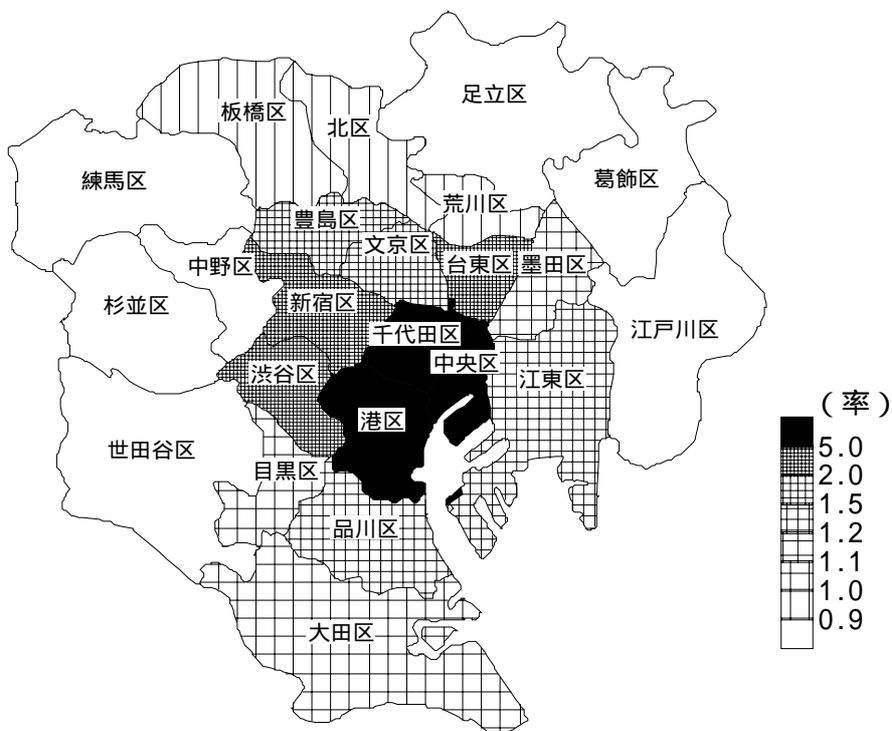
昼間人口は千代田区(855,172人)、港区(837,658人)、新宿区(798,611人)の順で多い。特別区全体の人口(夜間)は8,134,688人、昼間人口は11,125,135人。



1 人口・面積

1 - 13 23区の昼夜間人口比率

昼夜間人口比率は千代田区(23.73)が群を抜いて高く、次いで中央区(8.94)、港区(5.26)の順である。一方、練馬区(0.77)、江戸川区(0.81)、葛飾区(0.82)、杉並区(0.82)が低い。



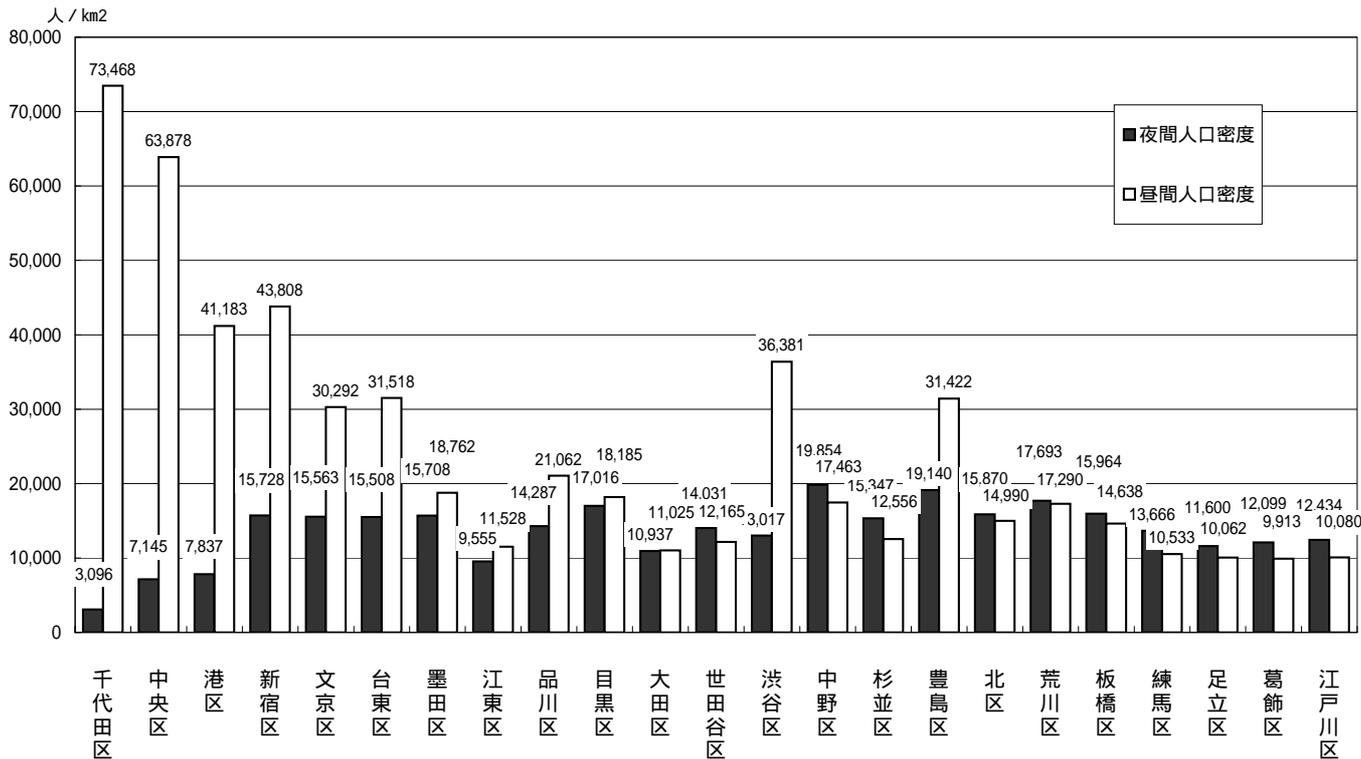
昼夜間人口比率

資料: 国勢調査(2000年)

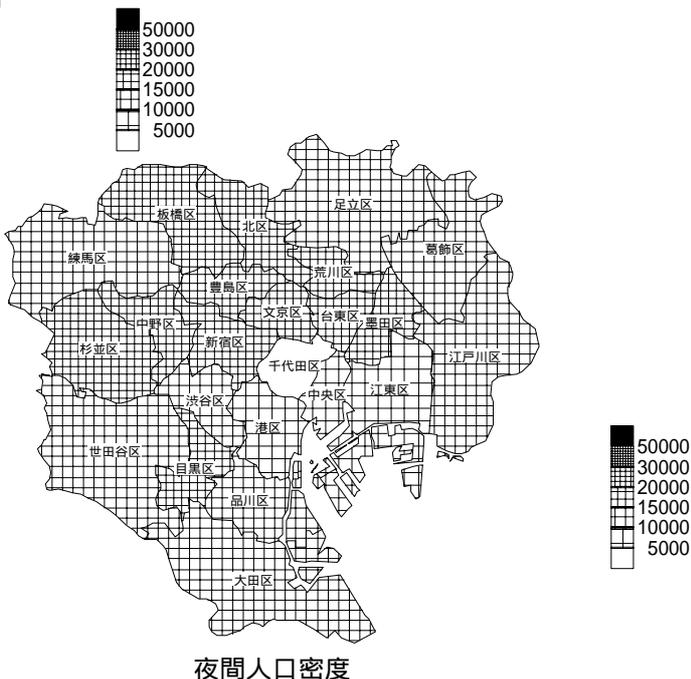
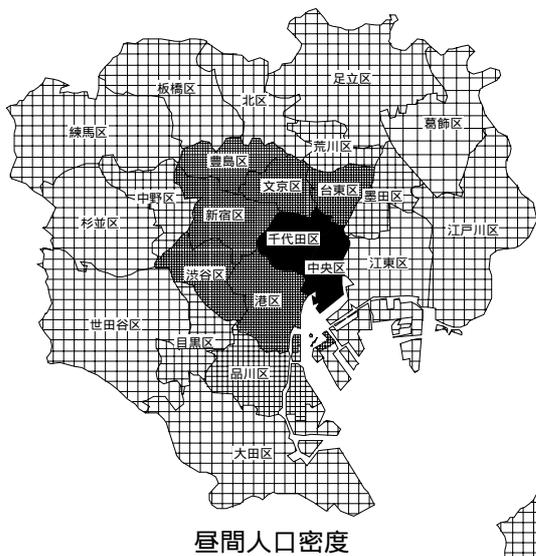
1 人口・面積

1 - 14 23区の昼夜間人口密度

昼間人口密度は、中心部の千代田区(73,468)、中央区(63,878)、新宿区(43,808)、港区(41,183)が高い。
 夜間人口密度は、千代田区(3,096)、中央区(7,145)、港区(7,837)が低い、各区間の差はそれほど大きくない。



資料: 国勢調査(2000年)

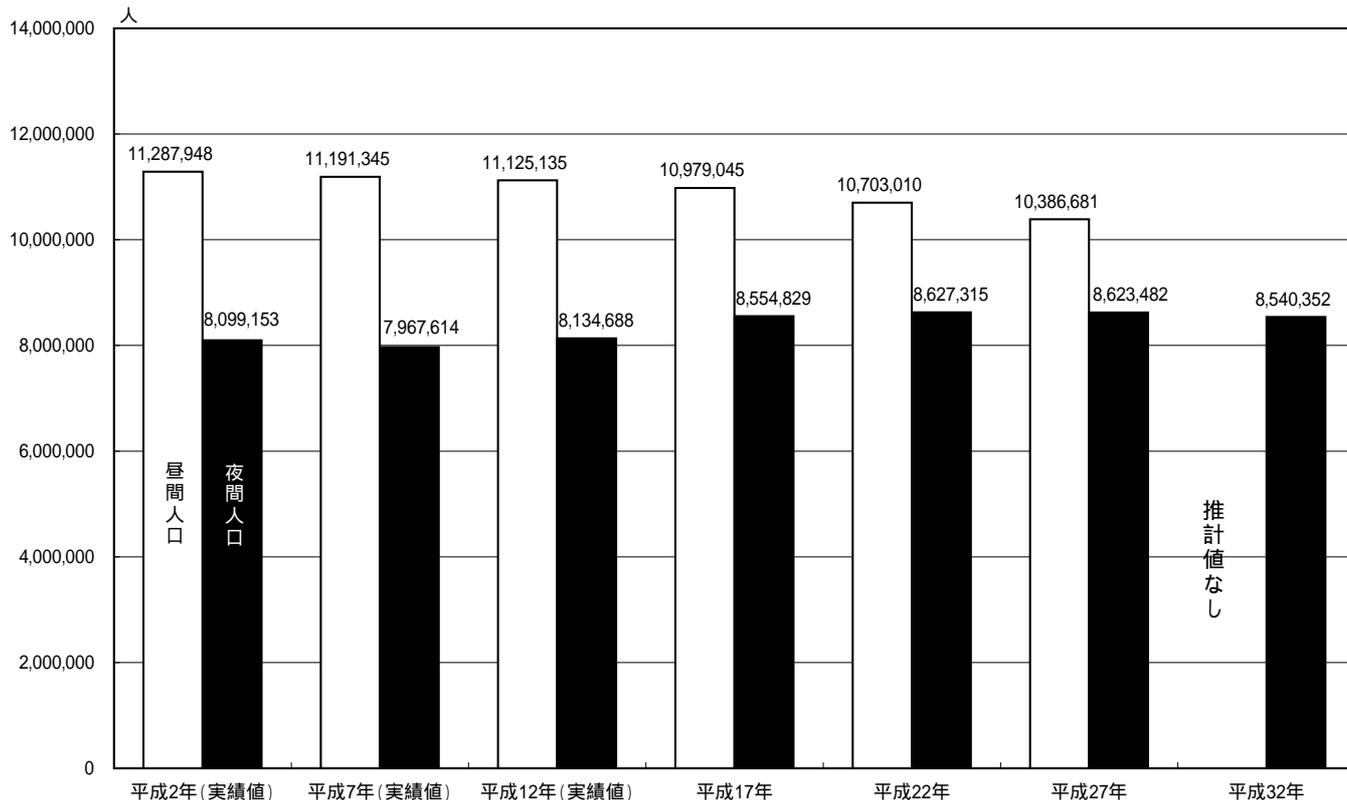


資料: 国勢調査(2000年)

1 人口・面積

1 - 15 特別区の昼夜間人口予測

東京都が行った人口予測によると、昼間人口は漸減傾向にあり、夜間人口は平成22年までは増加し、以降減少に転じるとしている。

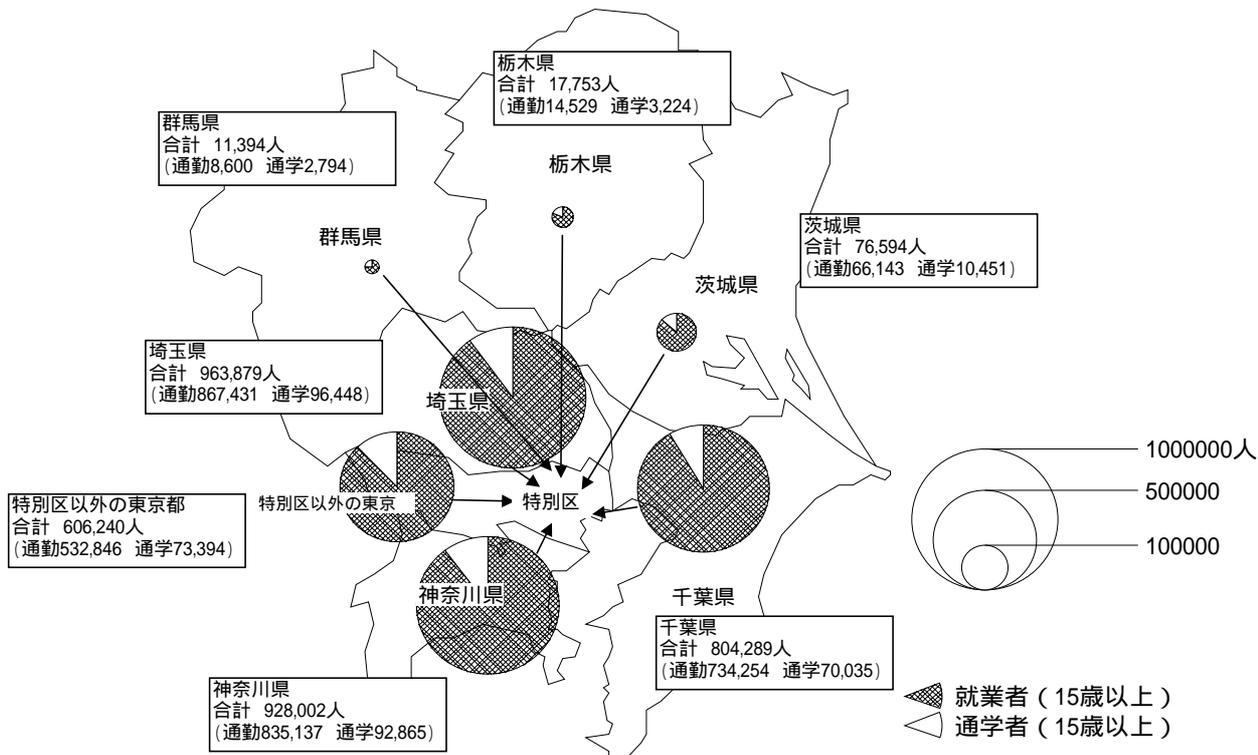


資料:東京都総務局統計部「東京都昼間人口の予測 - 17年・22年・27年・32年(夜間のみ)各年10月1日現在 - 」

1 人口・面積

1 - 16 特別区への流入人口(通勤・通学)

特別区内で従業・通学する人は7,768,896人(従業者6,993,133人、通学者775,763人)である。この内特別区内に常住している人は4,324,367人(従業者3,902,660人、通学者421,707人)である。特別区以外からの流入人口は次のとおりである。近県からの流入が多い。



特別区への流入人口

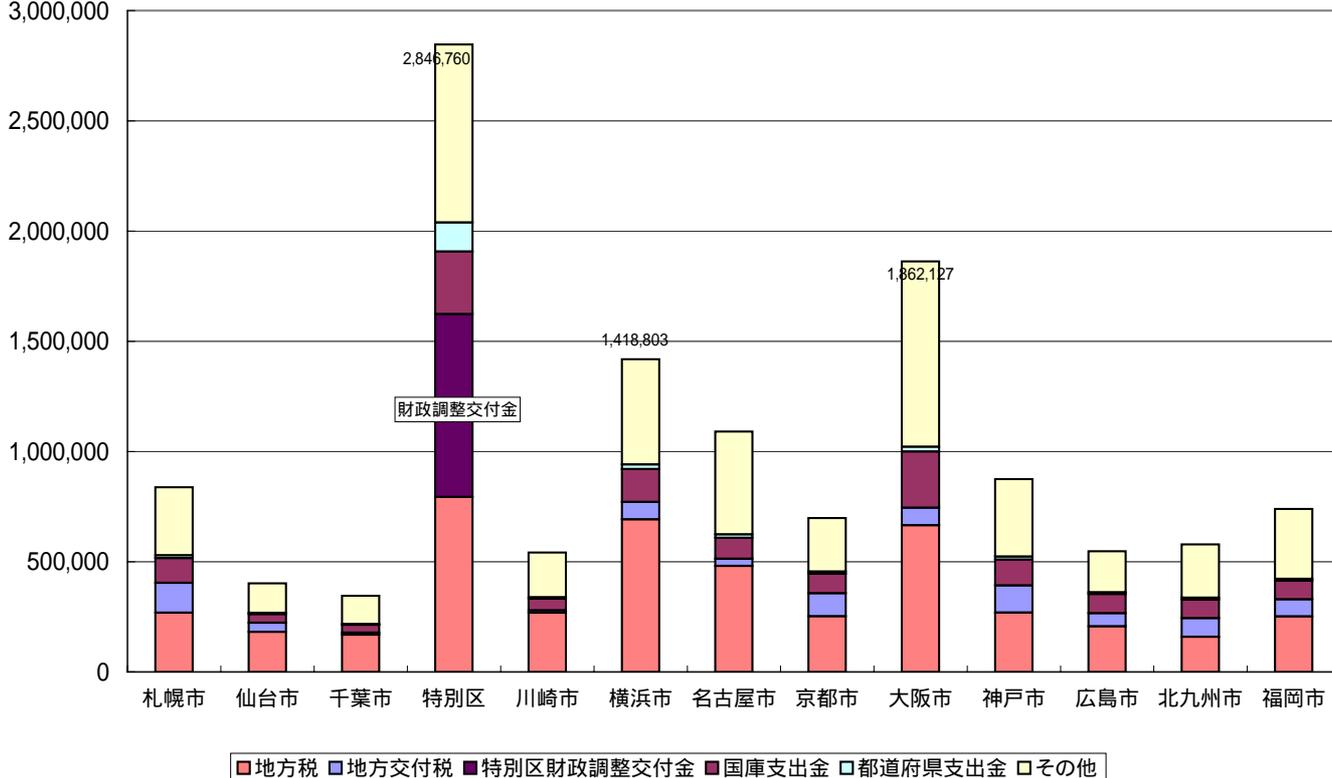
資料:国勢調査(2000年)

2 財政

2 - 1 歳入決算[大都市比較]

歳入決算総額では、特別区2兆8,468億円、大阪市1兆8,621億円、横浜市1兆4,188億円となっており、特別区は横浜市の2倍超の規模を有している。

単位:百万円
3,000,000

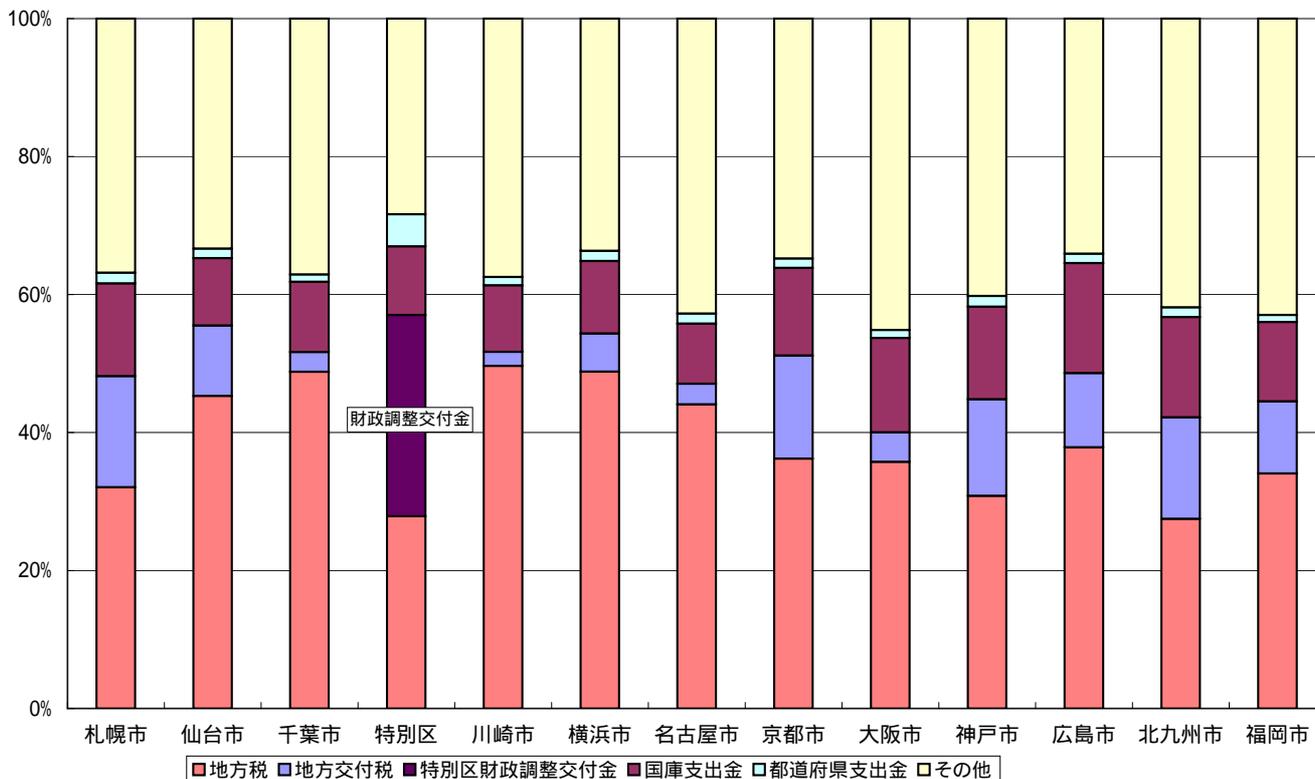


資料:2001大都市比較統計表 平成13年度普通会計決算

2 財政

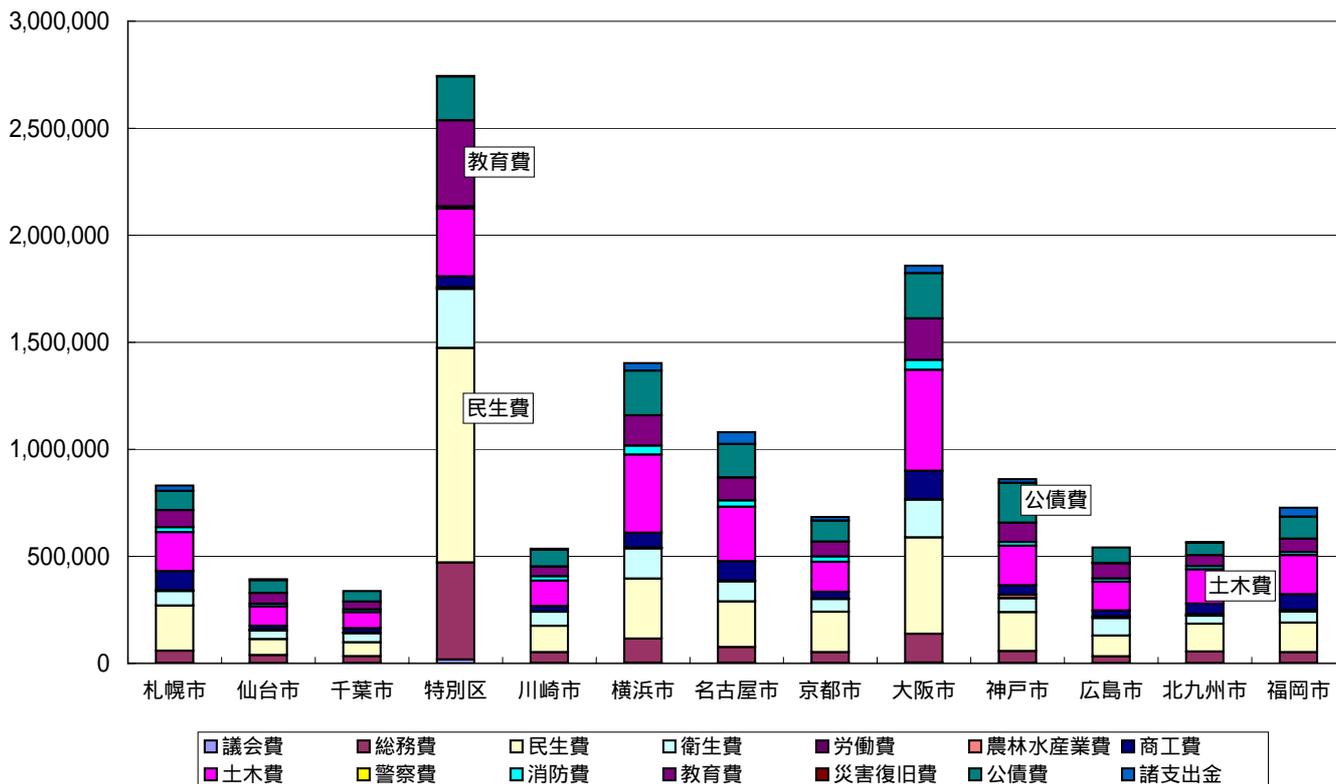
2 - 2 歳入決算構成比[大都市比較]

歳入に占める地方税の割合は、川崎市49.6%、横浜市48.8%の順となっている。特別区は財政調整制度により、地方税は27.9%であるが、財政調整交付金29.2%を含めると、57.1%となる。

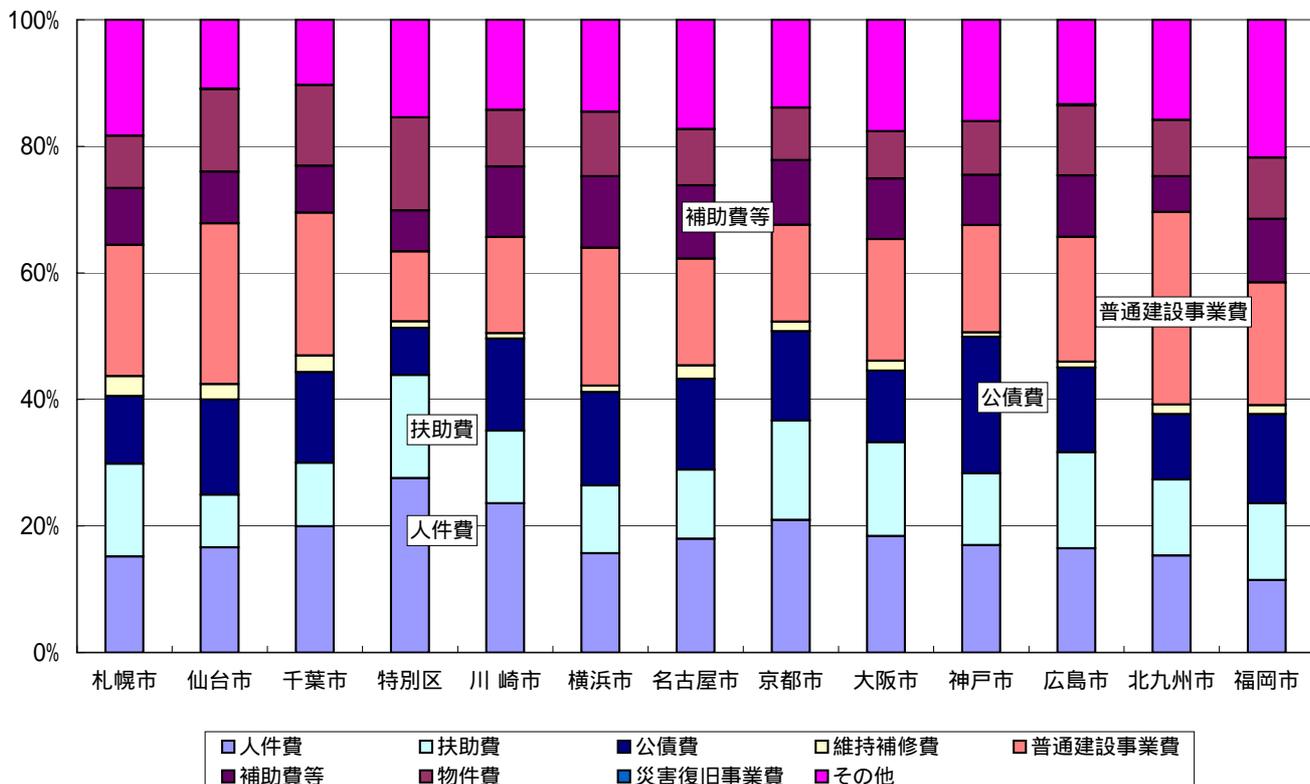


資料:2001大都市比較統計表 平成13年度普通会計決算

単位:百万円



資料:2001大都市比較統計表 平成13年度普通会計決算



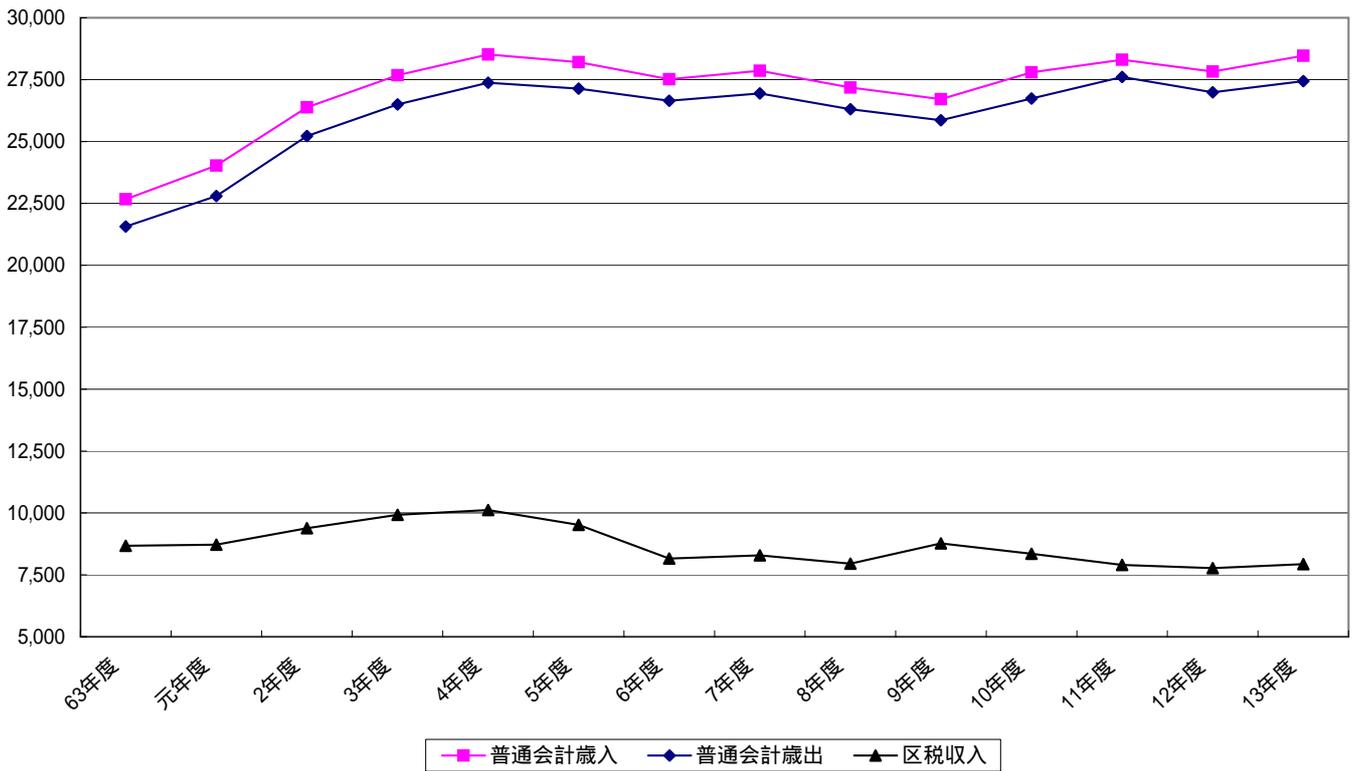
資料:2001大都市比較統計表 平成13年度普通会計決算

2 財政

2 - 5 特別区の決算規模推移

特別区の財政規模は、平成4年度の歳入総額2兆8,516億円、区税収入1兆121億円をピークとし、以後減少傾向にあったが、平成12年の清掃事業移管とともに戻りつつある。

単位:億円

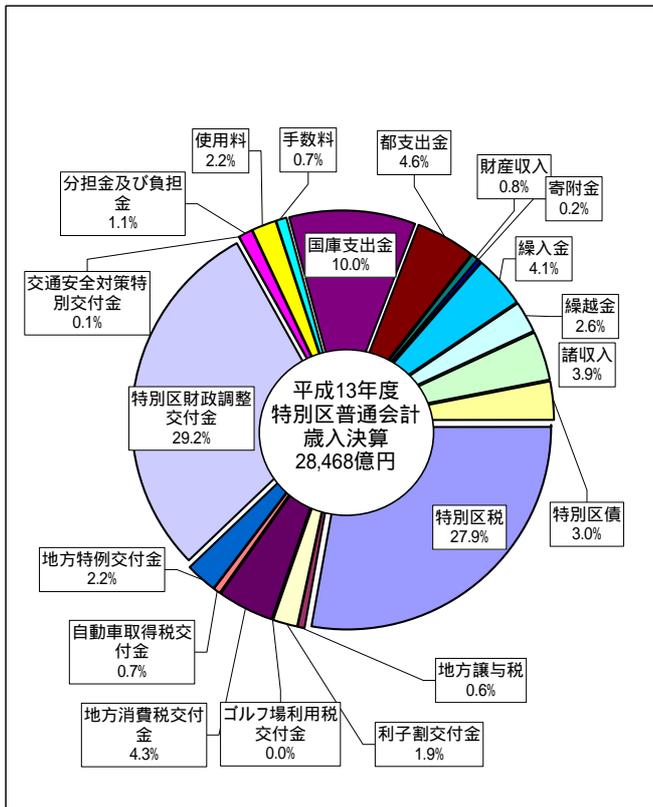


資料:特別区の統計平成元~14年版 昭和63~平成13年度普通会計決算

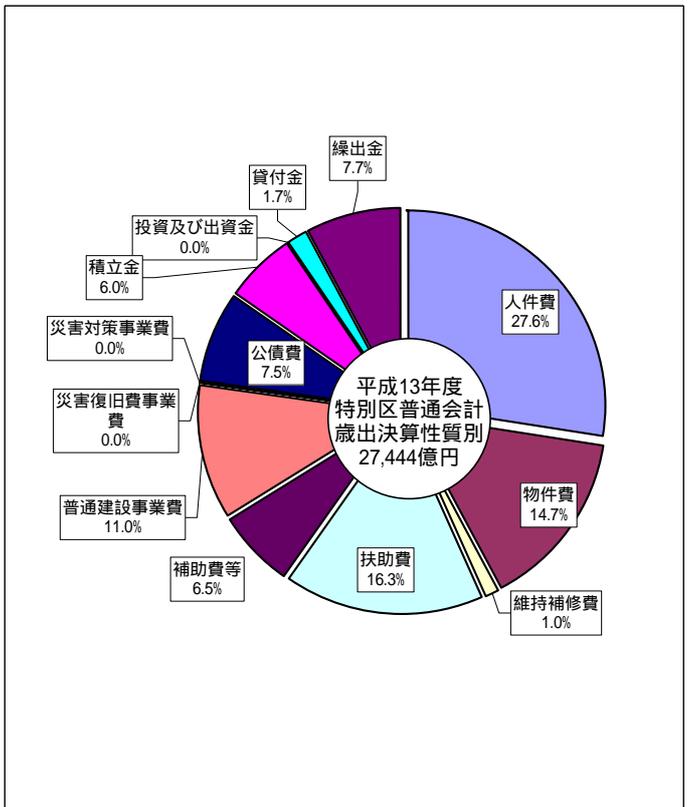
2 財政

2 - 6 特別区の歳入歳出決算構成比

歳入構成比では、特別区税、特別区財政調整交付金などの一般財源が6割超であり、歳出構成比では、義務的経費(人件費、扶助費、公債費)が5割を占めている。



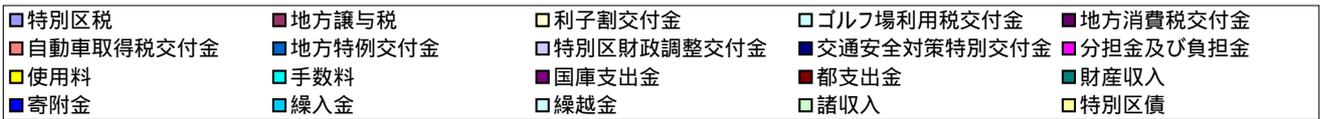
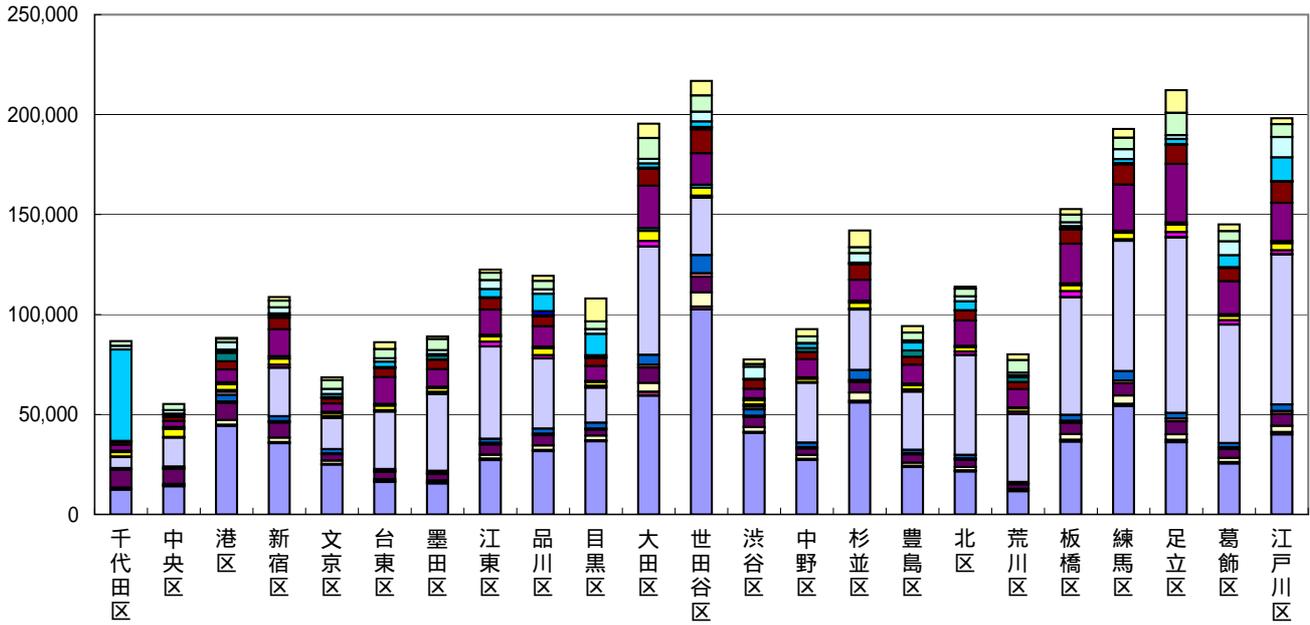
資料:特別区の統計平成14年版



資料:特別区の統計平成14年版

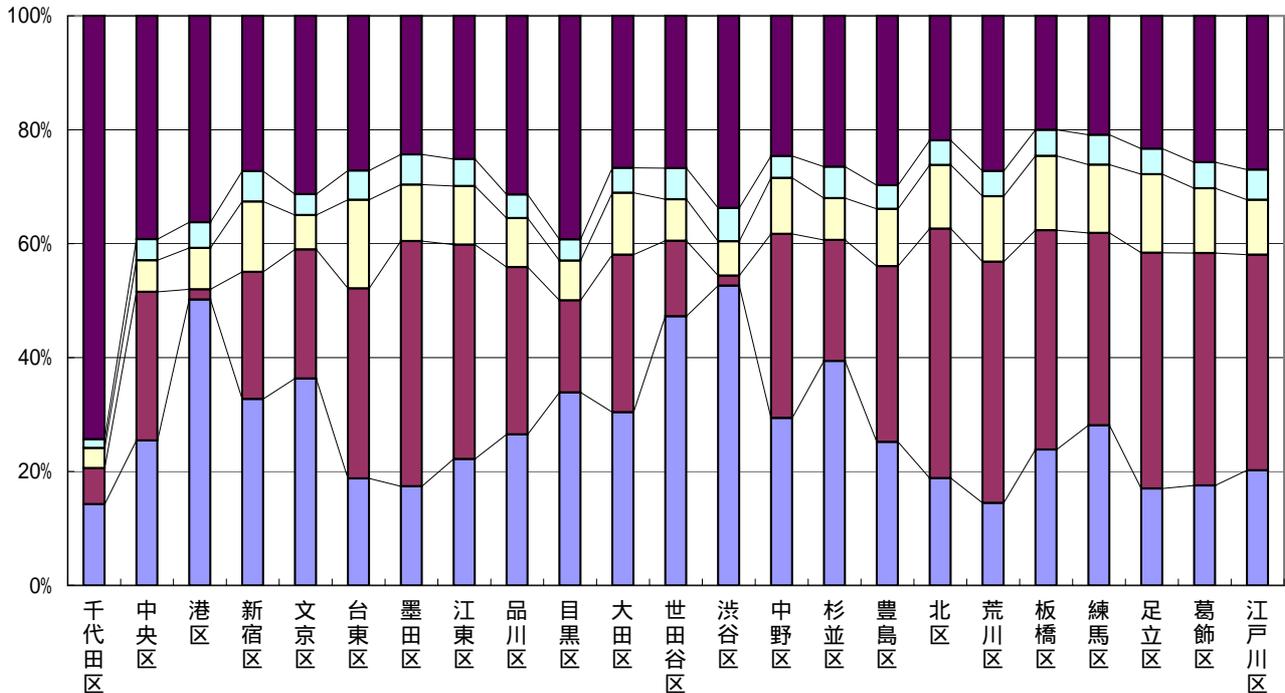
歳入決算総額では世田谷区2,169億円、足立区2,123億円。各項目の最大値は、地方譲与税は大田区17億円、財産収入は港区43億円、繰入金は千代田区457億円となっている。

単位:百万円



資料:特別区の統計平成14年版 平成13年度普通会計決算

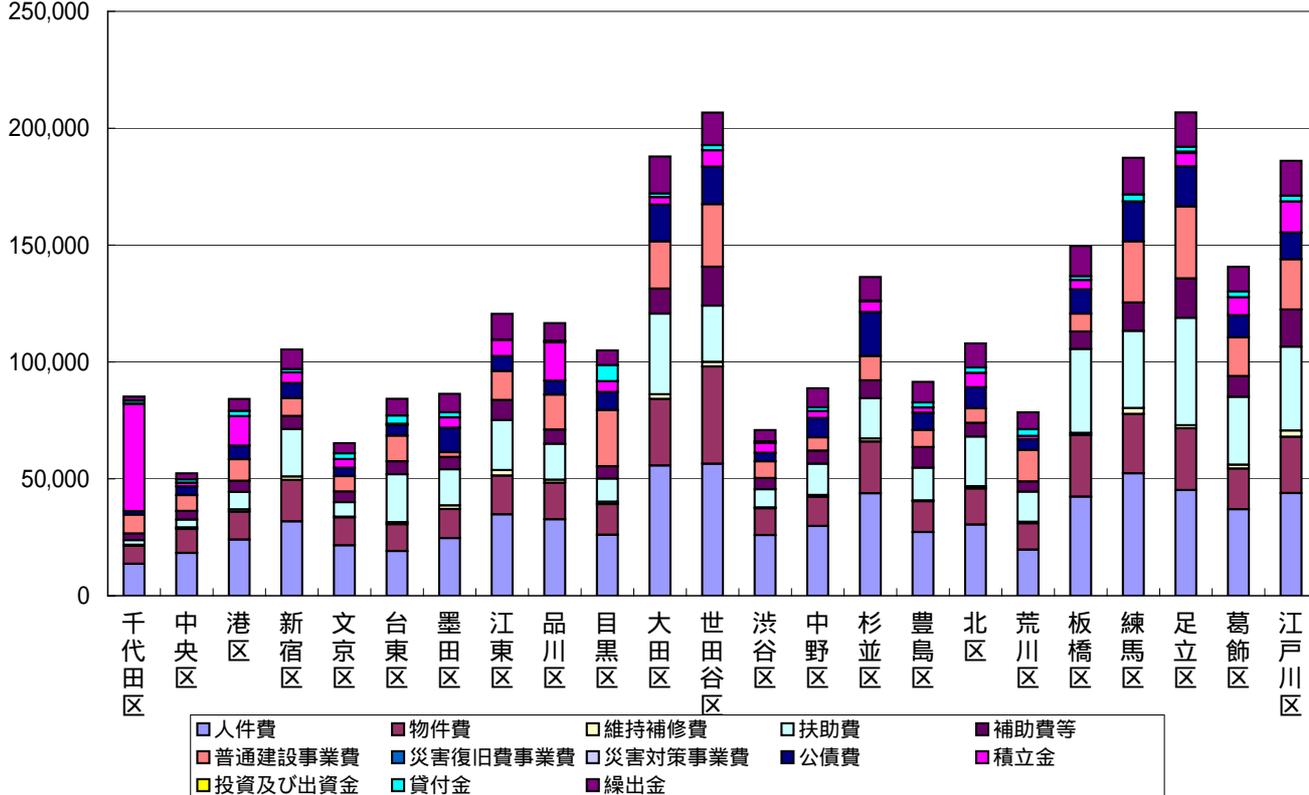
歳入決算構成比の各項目ごとの最大値は、特別区税は渋谷区52.6%、財政調整交付金は北区43.8%、特別区債は目黒区10.6%となっている。



資料:特別区の統計平成14年版 平成13年度普通会計決算

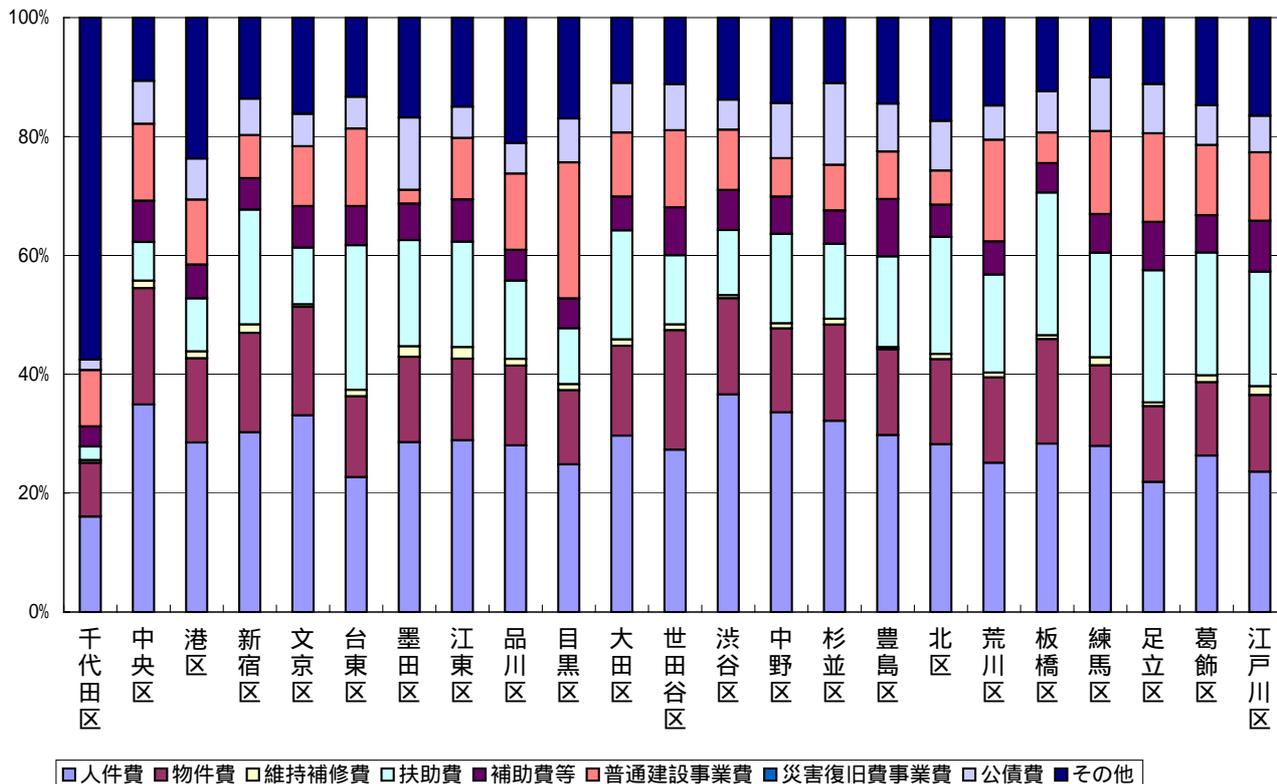
歳出決算性質別の最大値は、総額は足立区2,068億円、人件費は世田谷区565億円、扶助費は足立区460億円となっている。

単位:百万円
250,000



資料:特別区の統計平成14年版 平成13年度普通会計決算

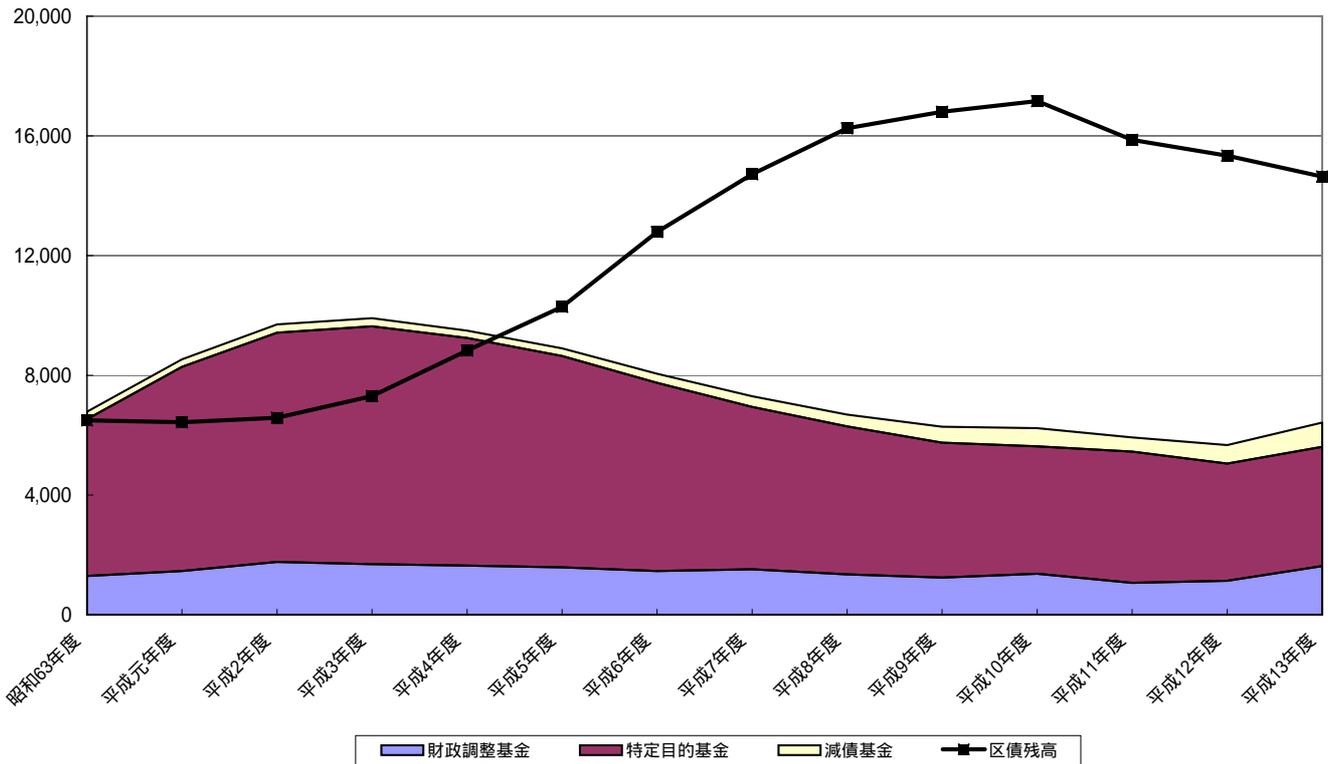
歳出決算性質別構成比の最大値は、人件費は渋谷区36.6%、扶助費は台東区24.3%、普通建設費は目黒区22.9%、公債費は杉並区13.8%となっている。



資料:特別区の統計平成14年版 平成13年度普通会計決算

基金残高は平成3年度9,910億円、区債残高は平成10年度1兆7,164億円をピークとして、減少傾向にある。

単位:億円

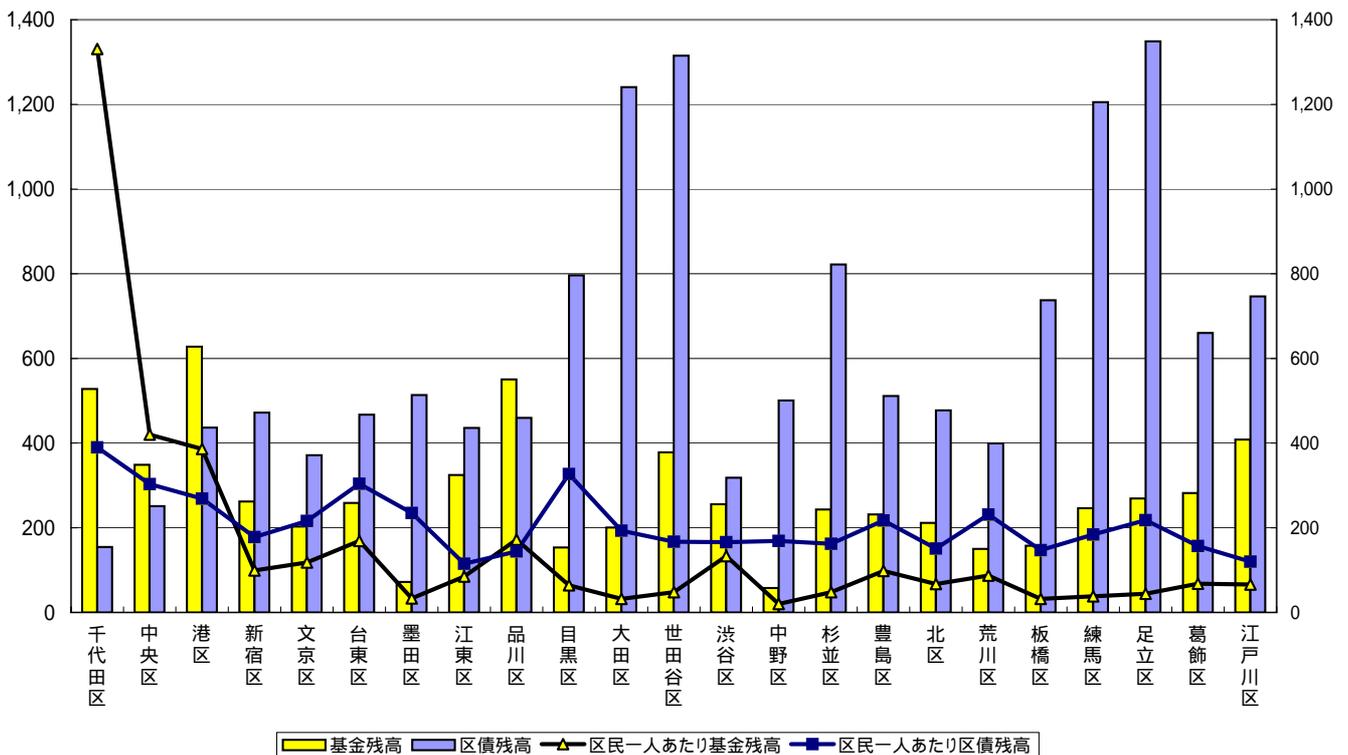


資料:特別区の統計平成元年度版～14年版 昭和63～平成13年度末現在

各項目ごとの最大値は、基金残高は港区628億円、区債残高は足立区1,349億円、一人あたりでは、千代田区が基金残高133万円、区債残高39万円となっている。

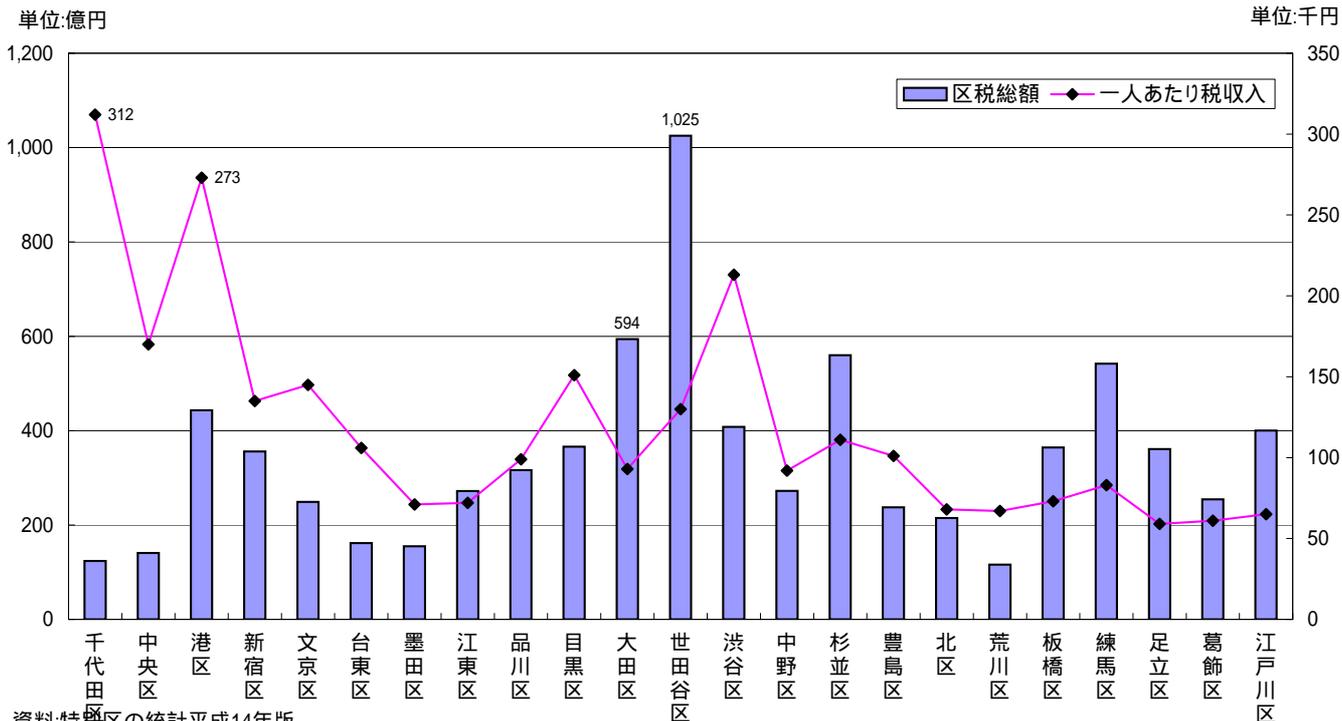
単位:億円

単位:千円



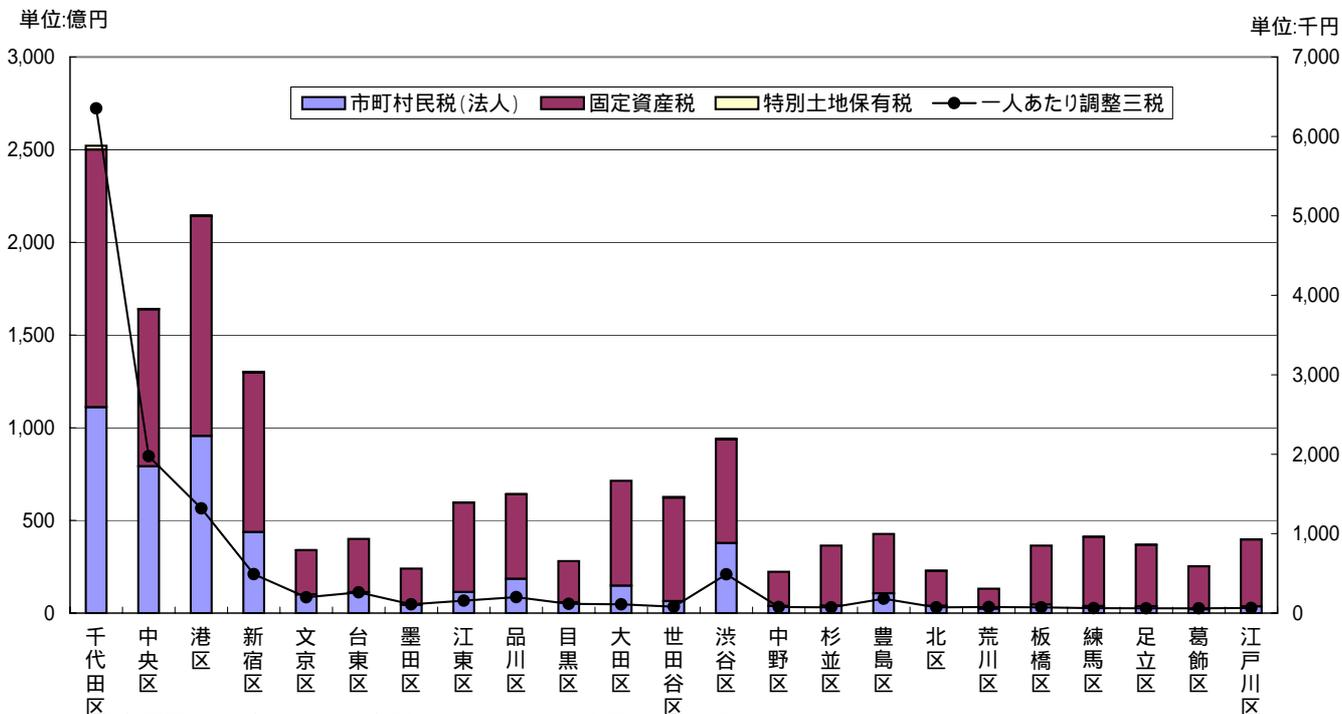
資料:特別区の統計平成14年版 平成13年度末現在

区税の内訳において各税の最高額は、特別区民税は世田谷区970億円、軽自動車税は足立区2億3千万円、特別区たばこ税は新宿区57億円となっている。



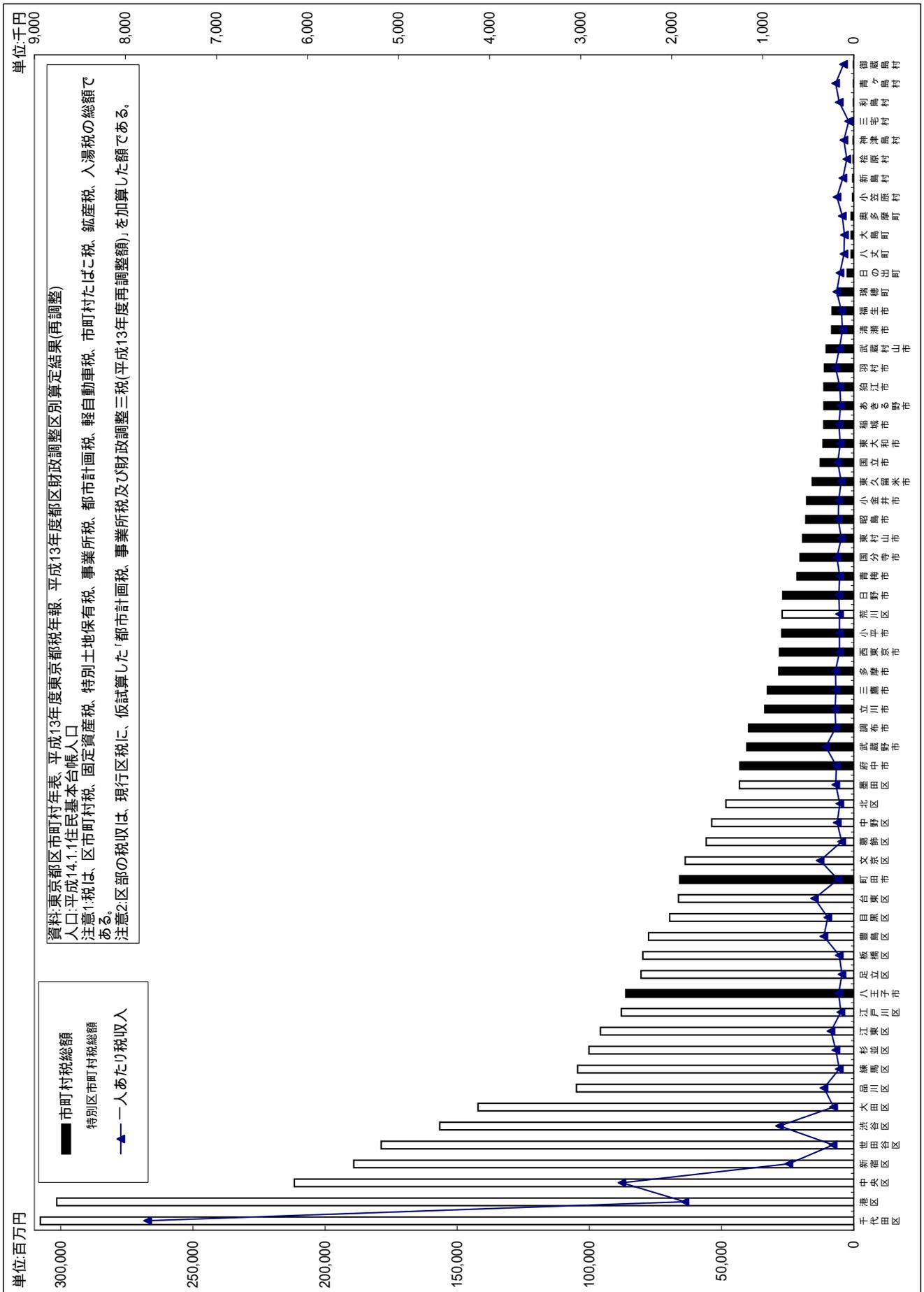
資料:特別区の統計平成14年版
 人口:平成14.1.1住民基本台帳人口
 区税:特別区民税、軽自動車税、特別区たばこ税、鉱産税、入湯税

市町村民税(法人)、固定資産税とも、都心3区(千代田区、中央区、港区)の収入額が抜き出ており、一人あたりの額でも同様の傾向が現れている。



資料:平成13年度東京都税年報、平成13年度都区財政調整区別算定結果(再調整)
 人口:平成14.1.1住民基本台帳人口
 調整三税:都区財政調整の財源とする税。市町村税法人分、固定資産税、特別土地保有税の三税を指す。
 注意1:各都税事務所の収入額は、徴税部収入を按分加算した額である。
 注意2:市町村民税(法人)は、総額を平成13年度財政調整(再調整)数値に合わせ按分した。

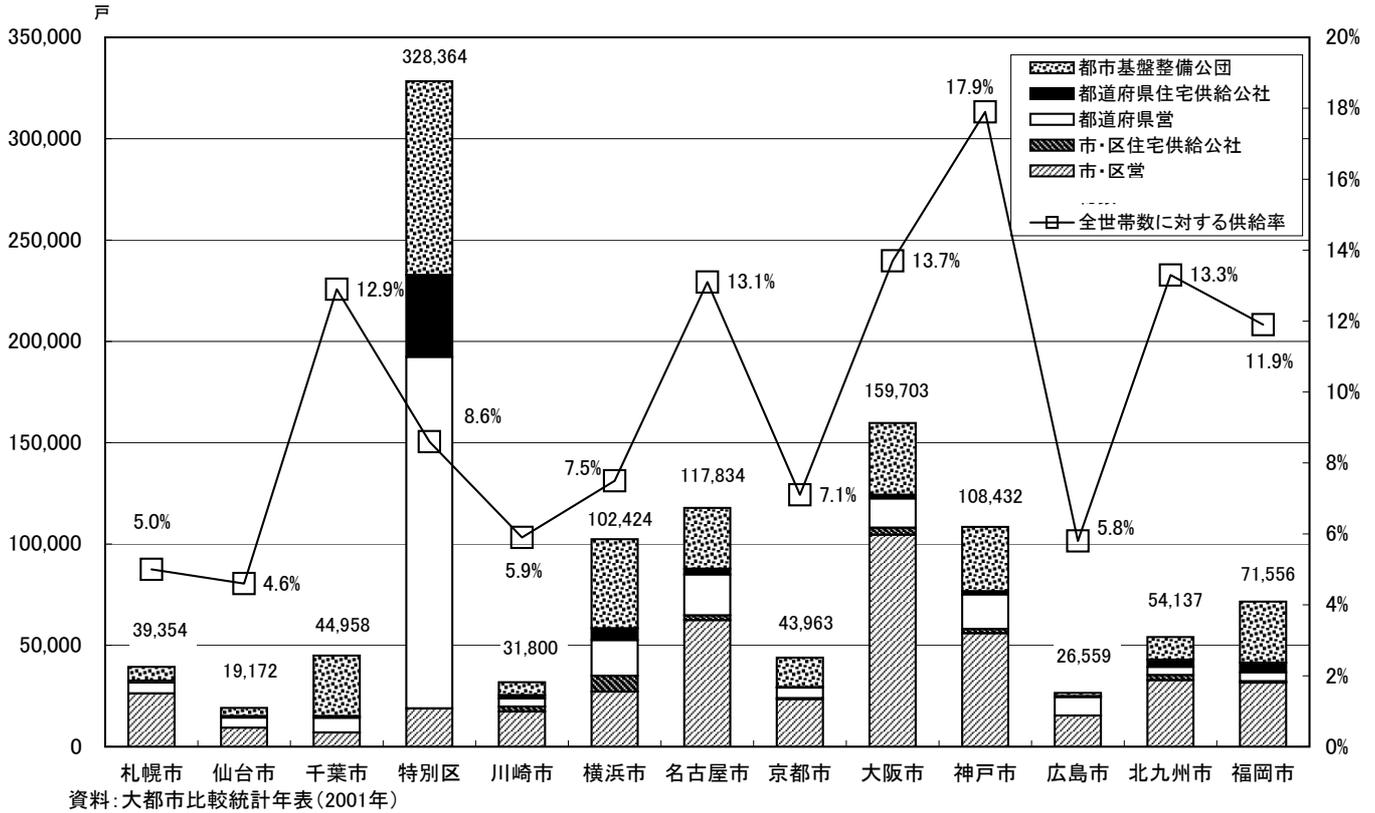
市町村税を都下市町村と比較すると、概ね区部が高順位を占めているが、一部の市町村が混在している。



3 その他

3-1 公営賃貸住宅数[大都市比較]

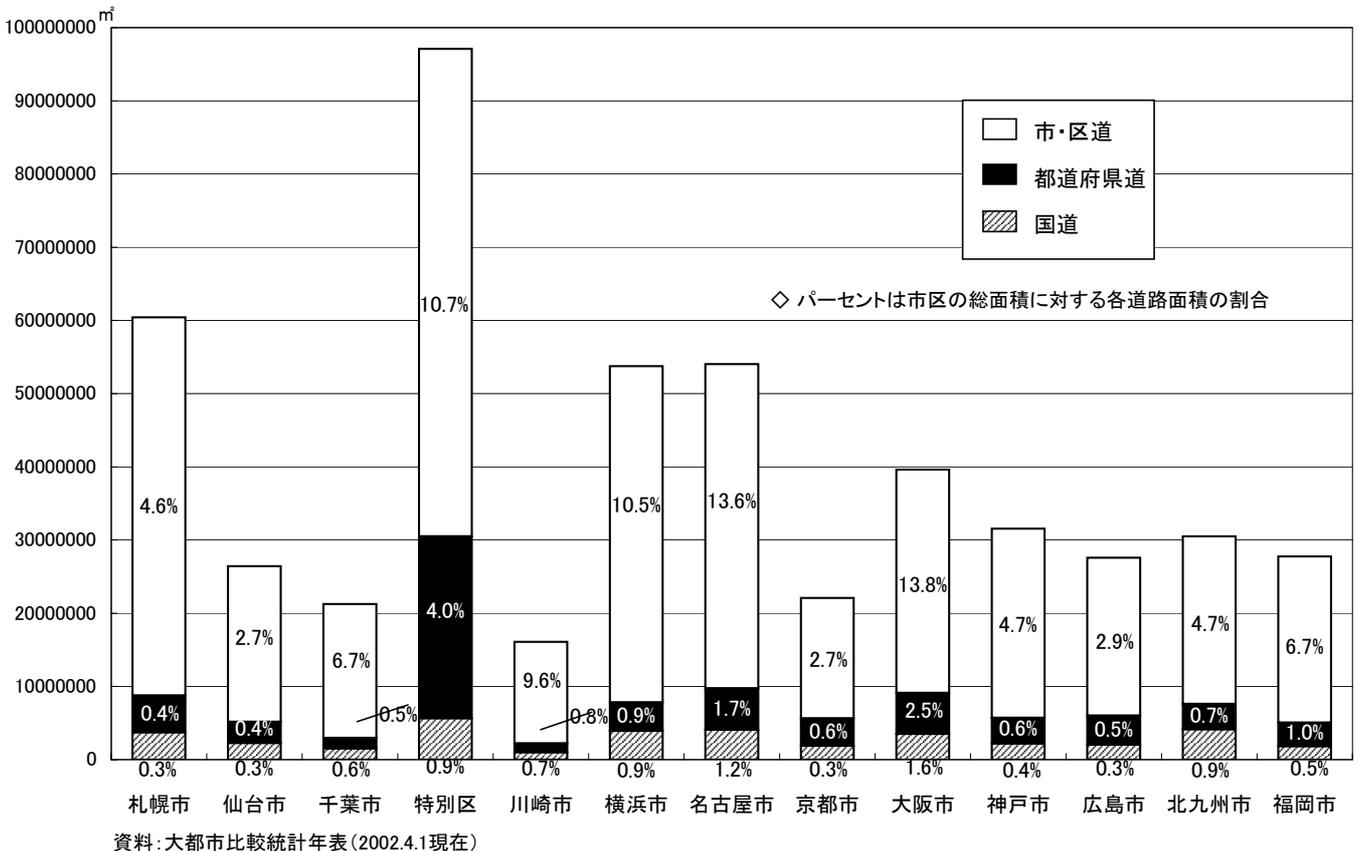
公営賃貸住宅数は特別区が一番多いが、全世帯数に対する供給率で見ると中位となる。供給率のトップは神戸市(17.9%)である。



3 その他

3-2 種類別道路面積[大都市比較]

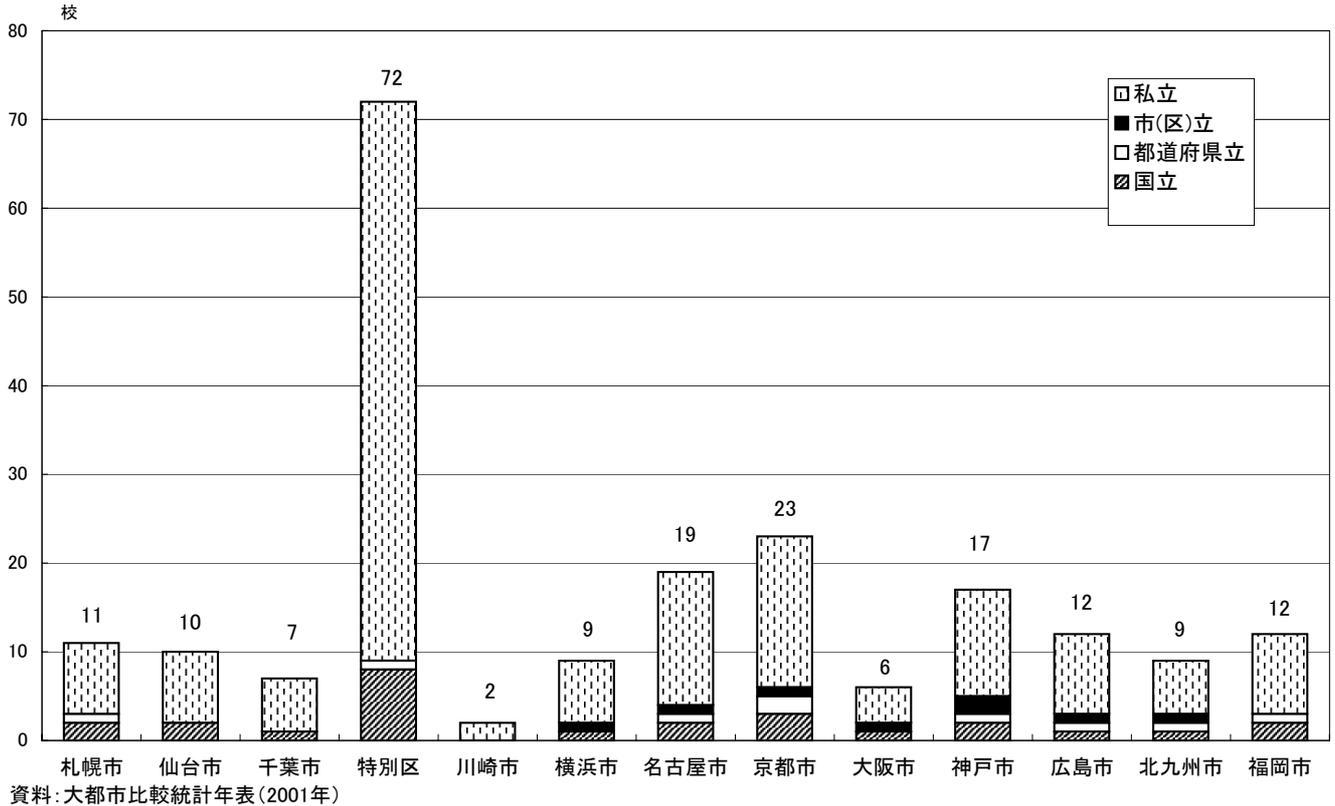
市・区の総面積に対する道路面積の割合を見ると、市・区道では大阪市(13.8%)、名古屋市(13.6%)、特別区(10.7%)、横浜市(10.5%)が多い。都道府県道では特別区が4.0%と他の都市と比べて高い。



3 その他

3-3 大学数[大都市比較]

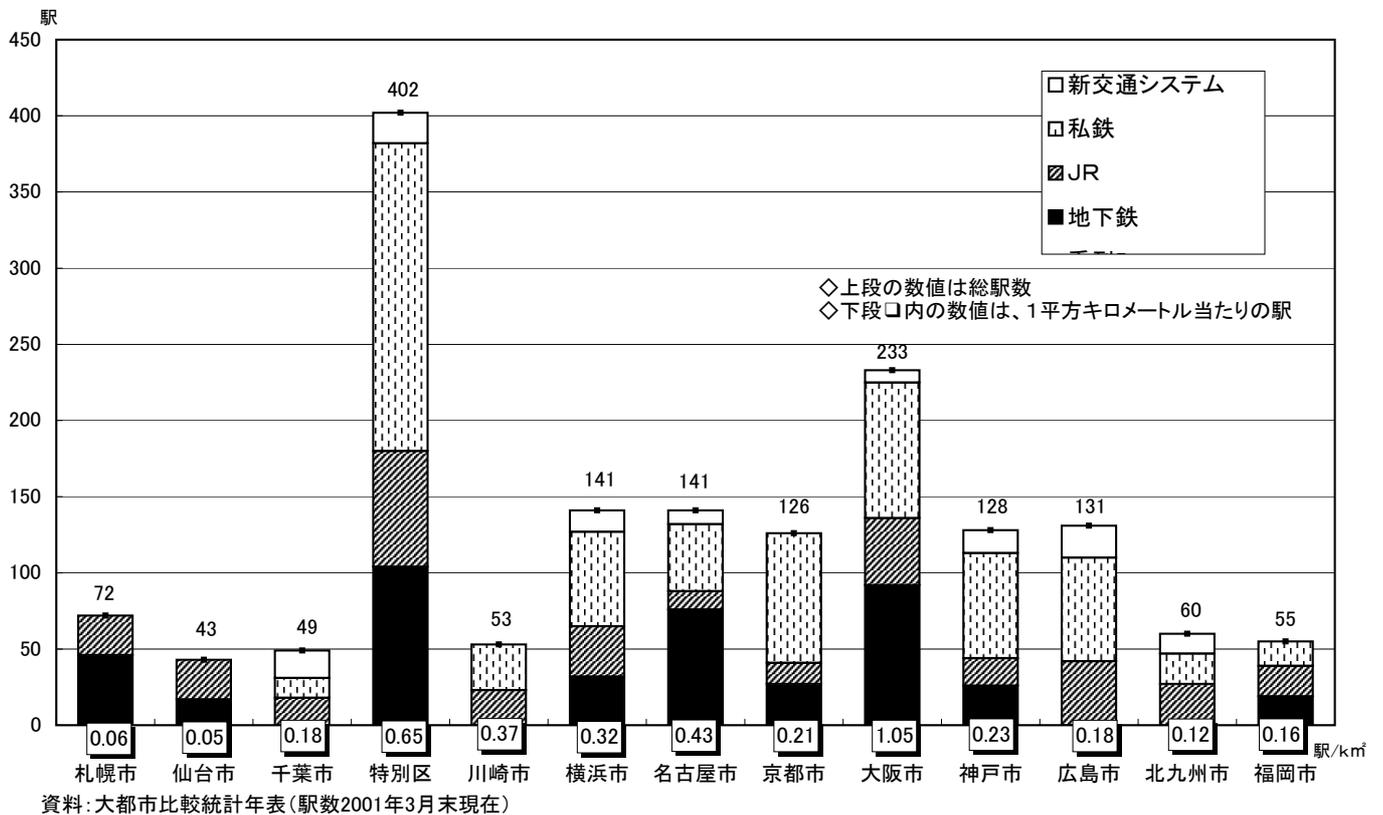
特別区内の大学の数は72校と、他の都市に比べて圧倒的に多い。



3 その他

3-4 鉄道駅数[大都市比較]

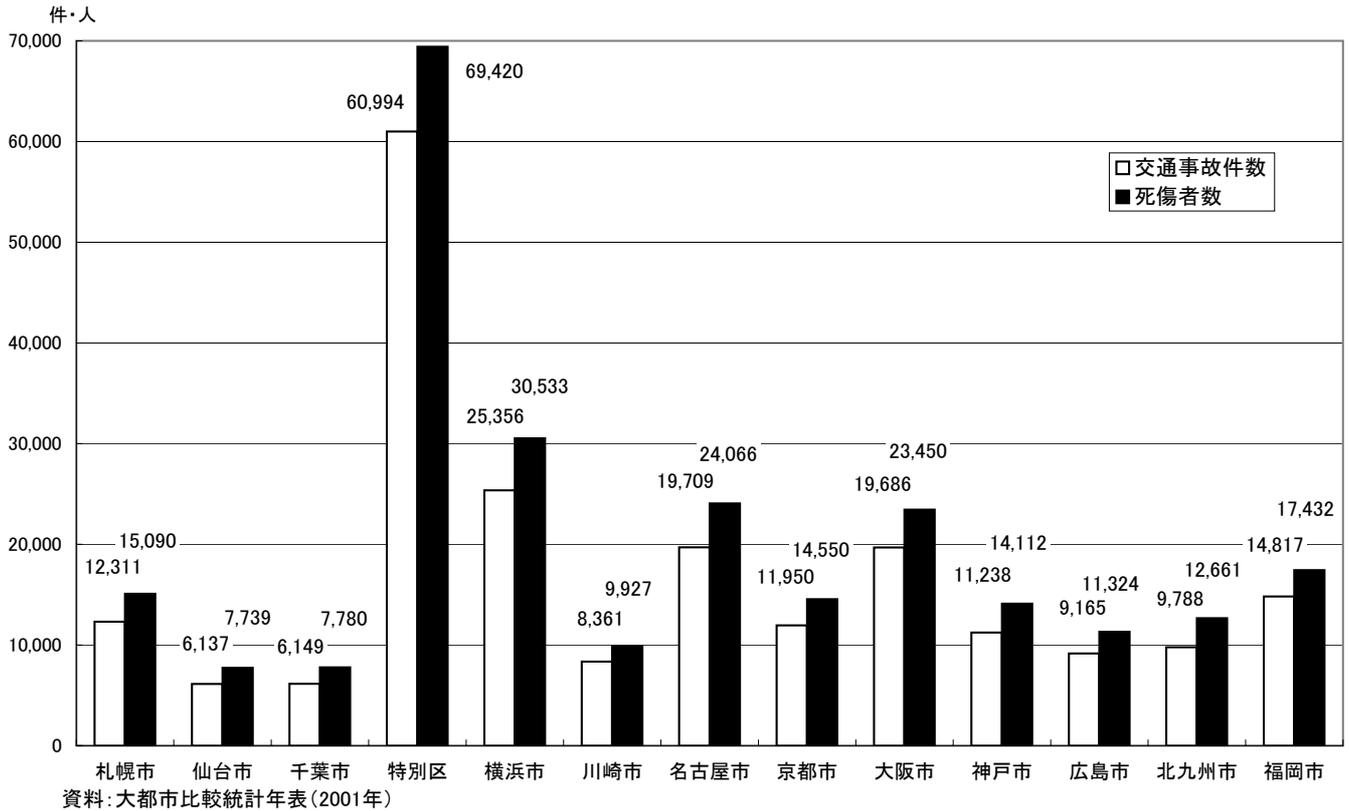
鉄道駅数は特別区(402駅)、大阪市(233駅)が多い。1平方メートル当たりの駅数は大阪市(1.05駅/km²)が最も高く、次いで特別区(0.65駅/km²)の順となっている。



3 その他

3-5 交通事故[大都市比較]

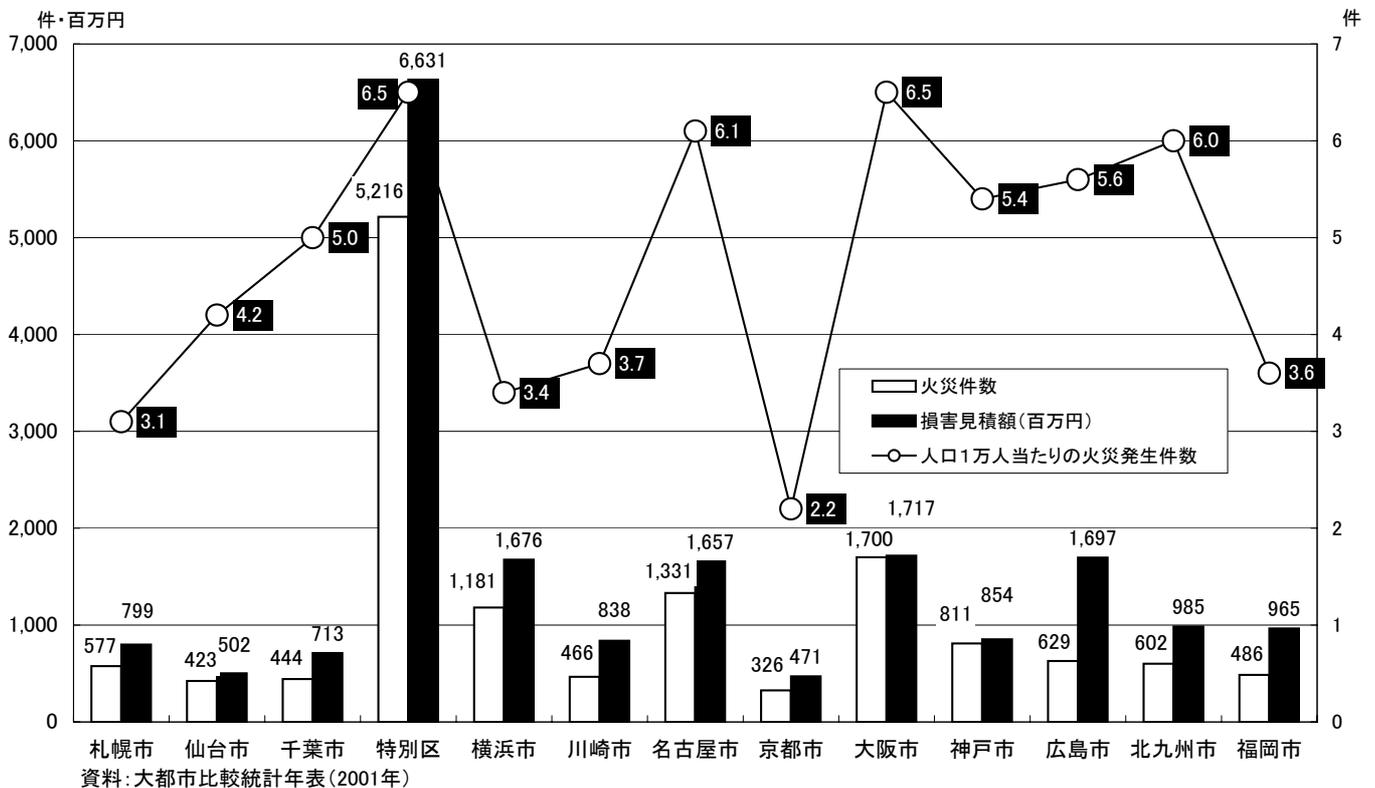
特別区が交通事故件数(60,994件)及び死傷者数(69,420人)ともが多い。

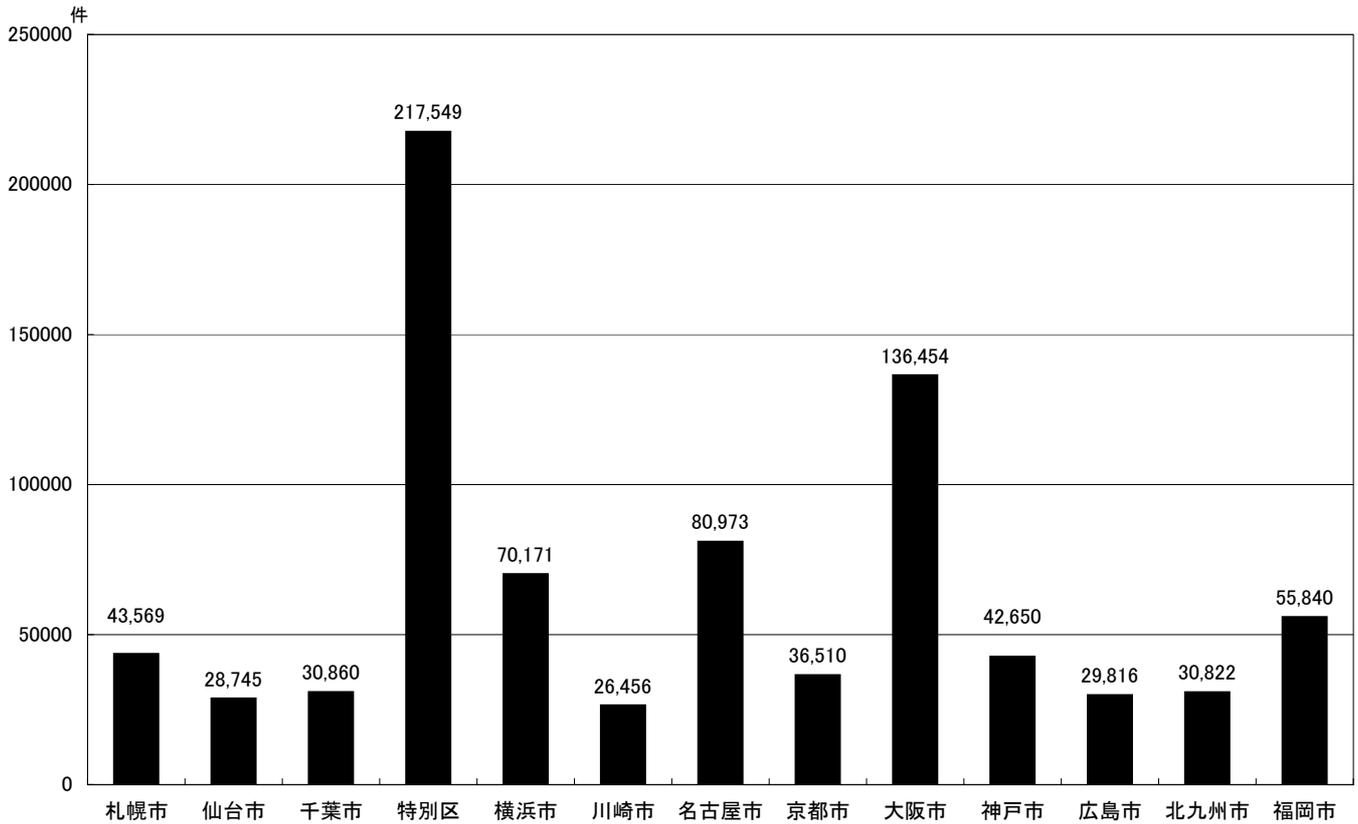


3 その他

3-6 火災件数及び損害見積り額 [大都市比較]

特別区が火災件数(5,216件)及び損害見積り額(6,631百万円)で最も多い。人口一万人当たりの火災発生件数は特別区(6.5件)大阪市(6.5件)が最も多い。

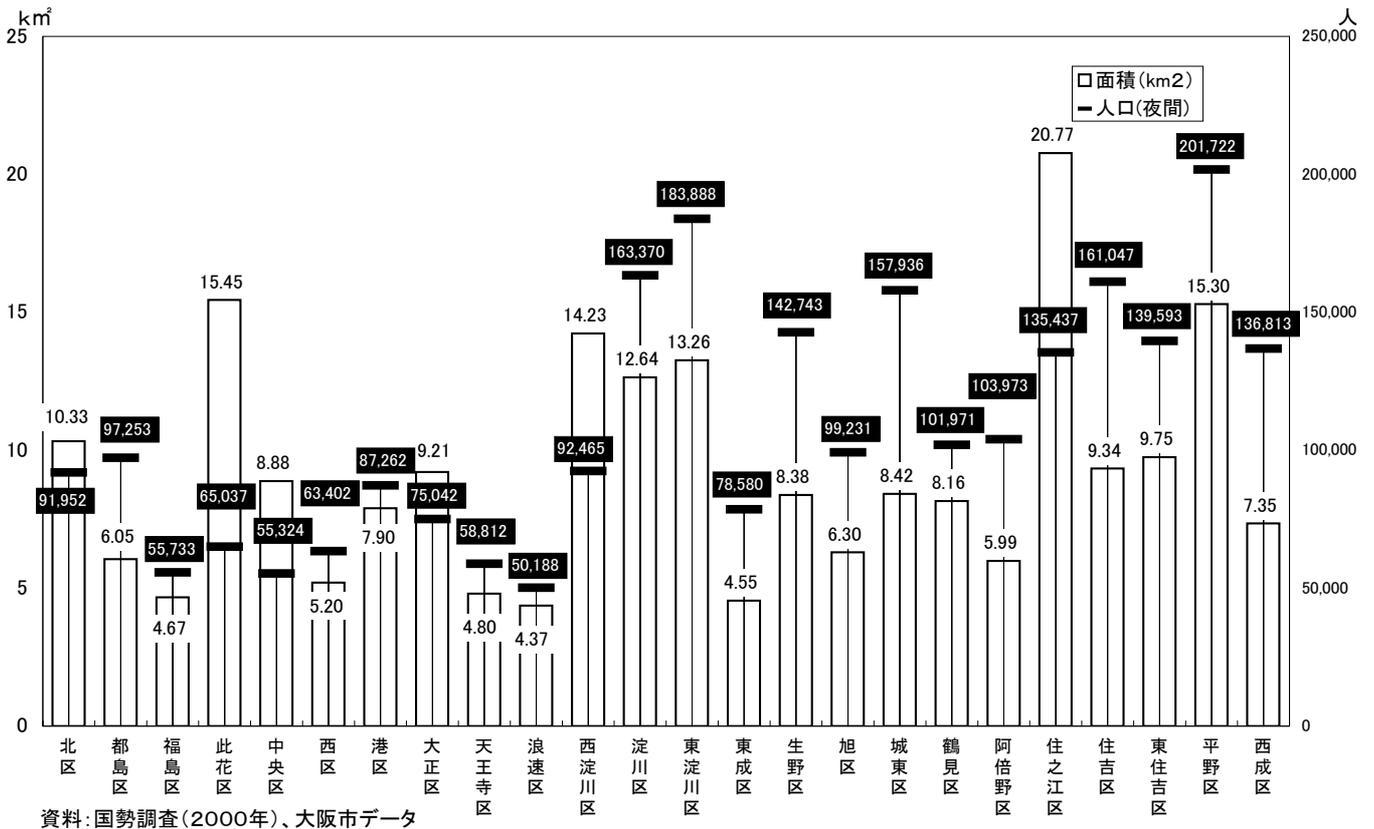




資料:大都市比較統計年表(2001年、京都市・広島市・北九州市は2000年)

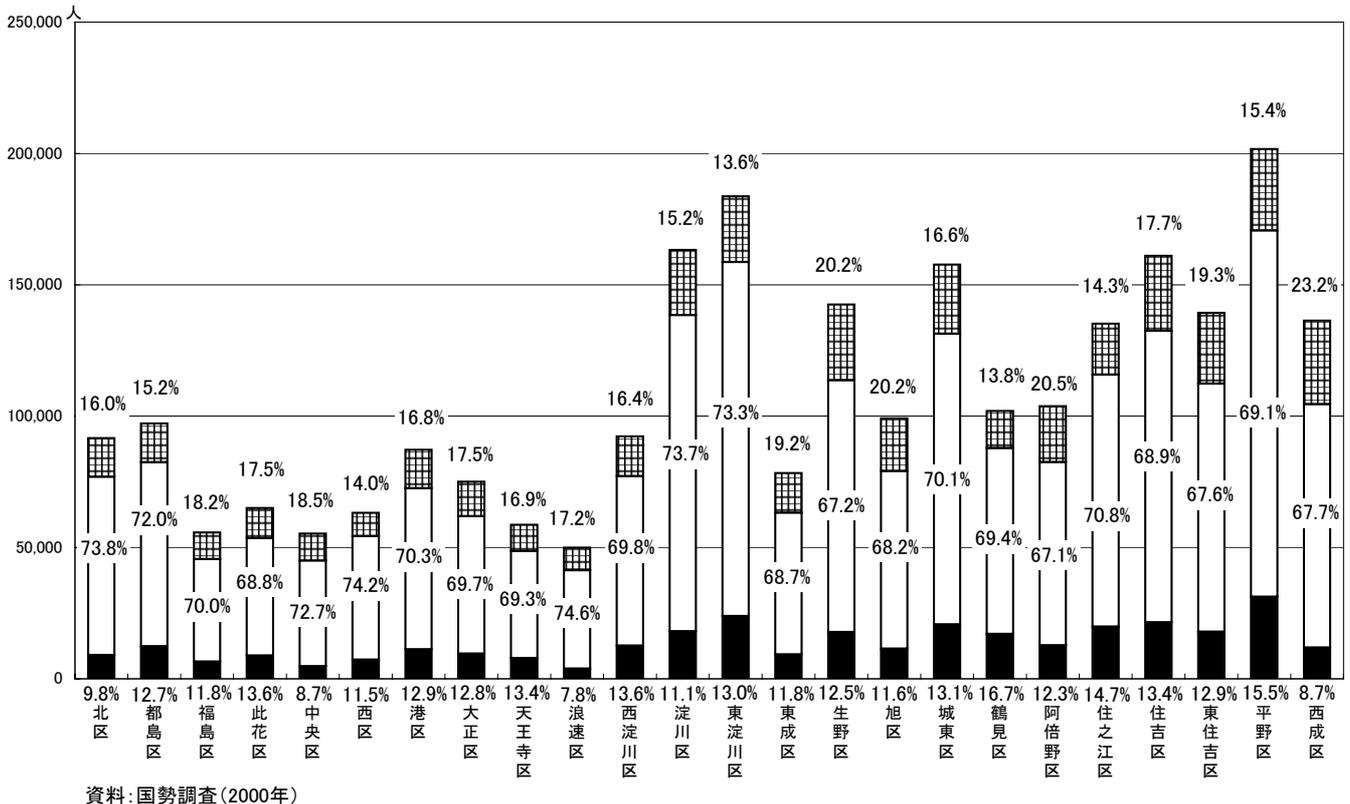
4 大阪市のデータ 4-1 大阪市の面積と人口

面積は住之江区(20.77km²)が最も大きく、最も小さい浪速区(4.37 km²)の4.8倍である。人口は平野区(201,722人)が最も多く、最も少ない浪速区(50,188人)の4.0倍である。いずれも特別区の差(面積5.9倍、人口22.6倍)よりも小さい。



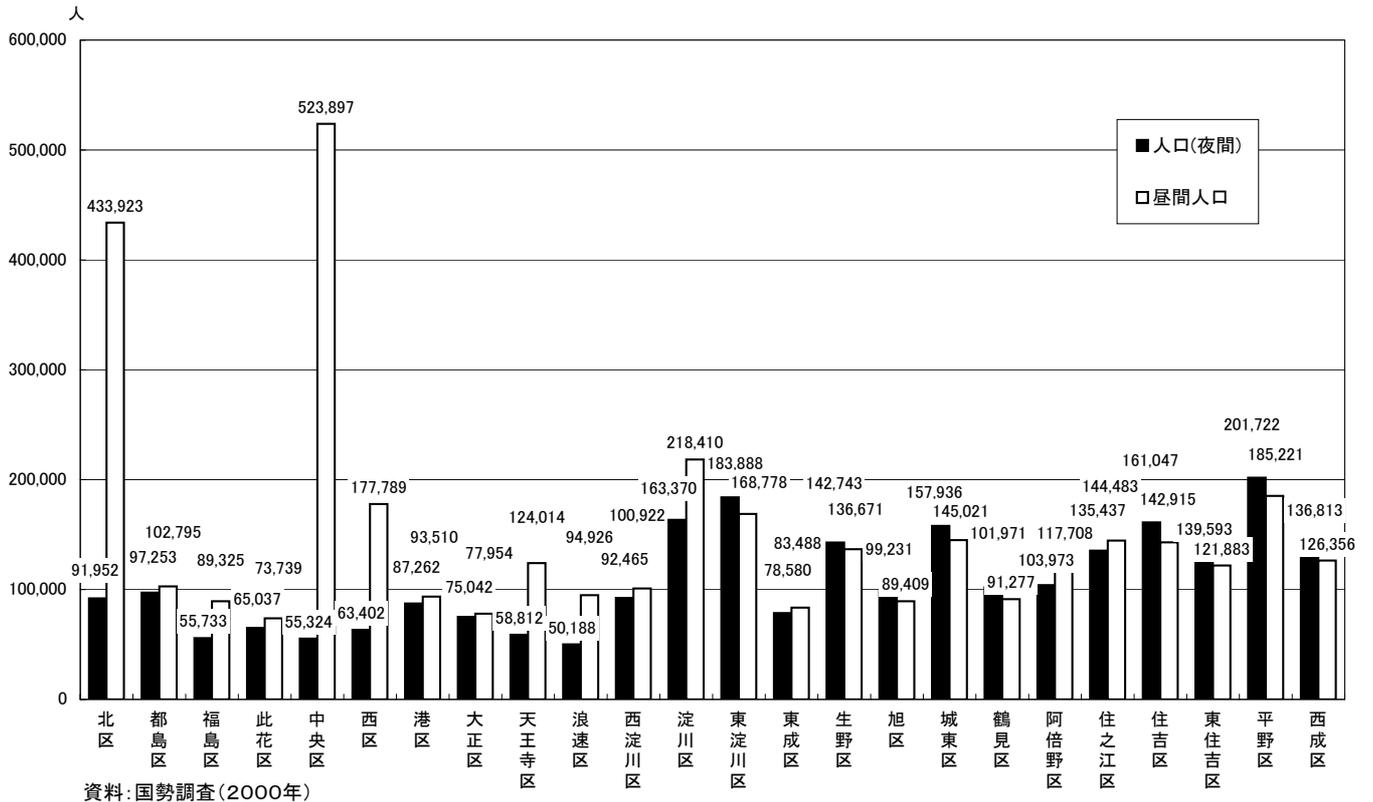
4 大阪市のデータ 4-2 大阪市の三層人口

高齢者人口比率が最も高いのは西成区(23.2%)で次いで阿倍野区(20.5%)、生野区及び旭区(20.2%)の順である。最も低いのは東淀川区(13.6%)である。年少人口比率のもっとも高いのは鶴見区(16.7%)で次いで平野区(15.5%)、住之江区(14.7%)である。最も低いのは浪速区(7.8%)である。



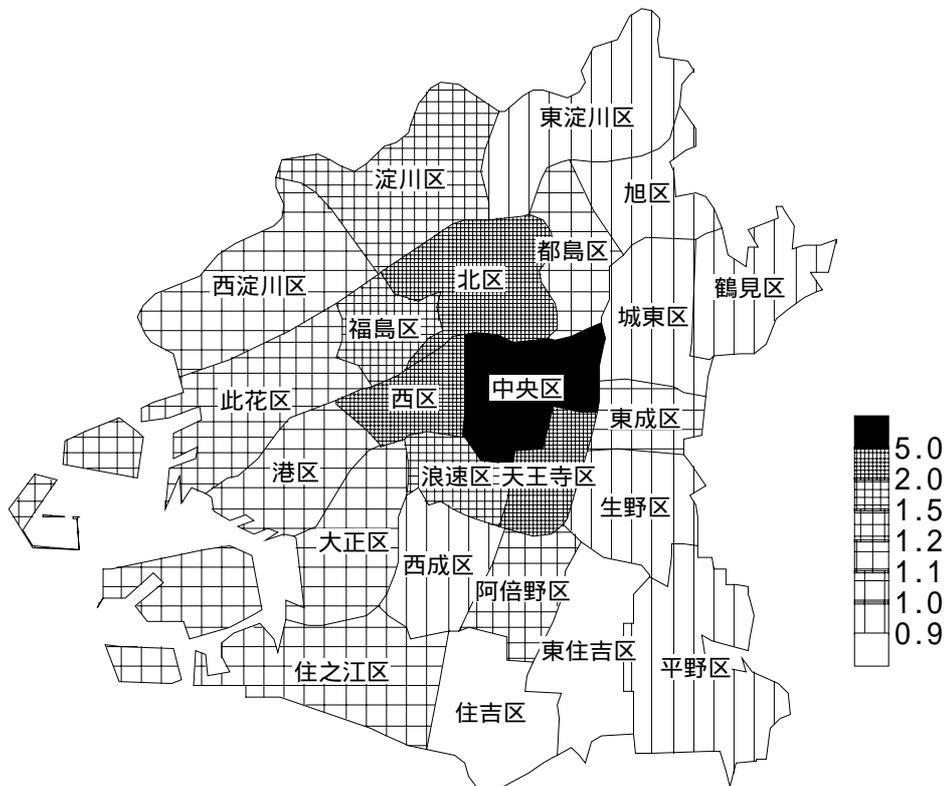
4 大阪市のデータ 4-3 大阪市の昼夜間人口

昼間人口は中央区(523,897人)、北区(433,923人)が圧倒的に多い。



4 大阪市のデータ 4-4 大阪市の昼夜間人口比率

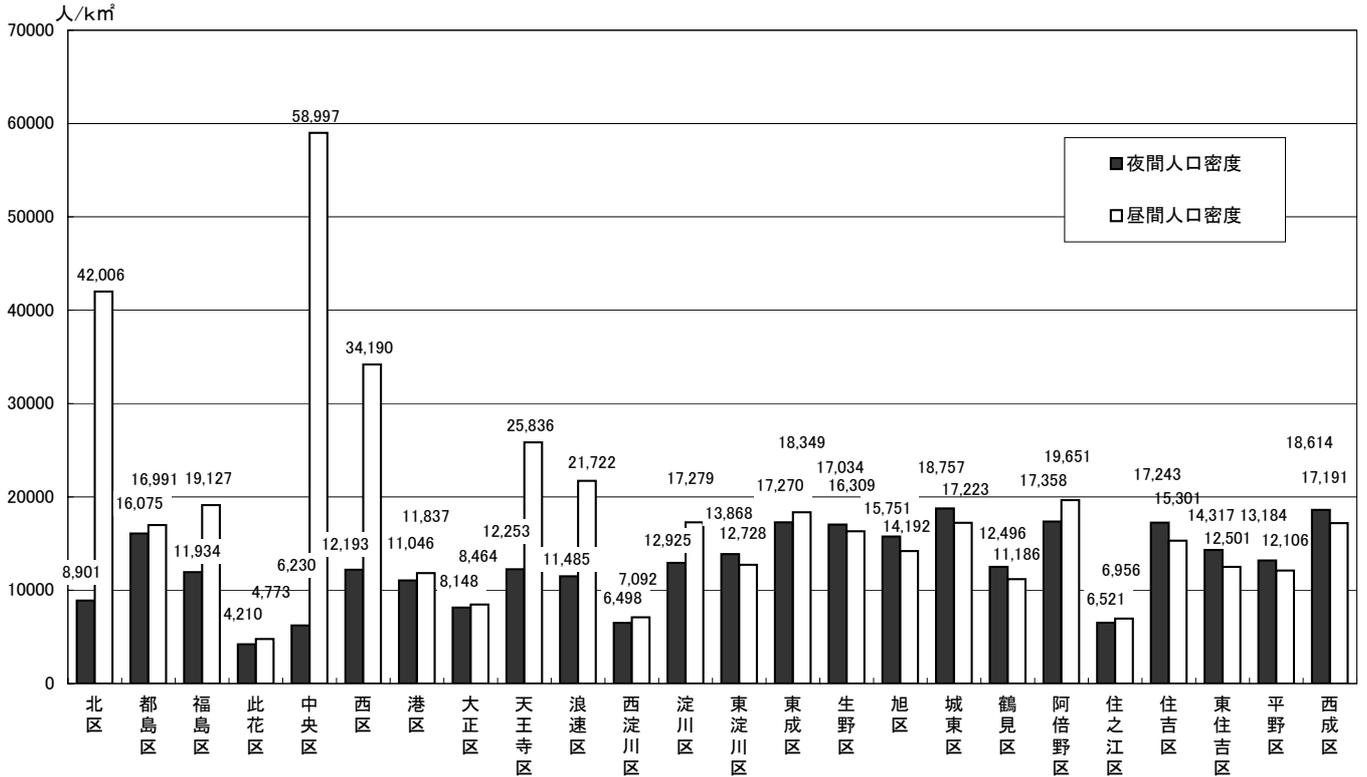
昼夜間人口比率は中央区(9.47)が群を抜いて高く、次いで北区(4.72)の順である。一方、東住吉区(0.87)、住吉区(0.89)が低い。



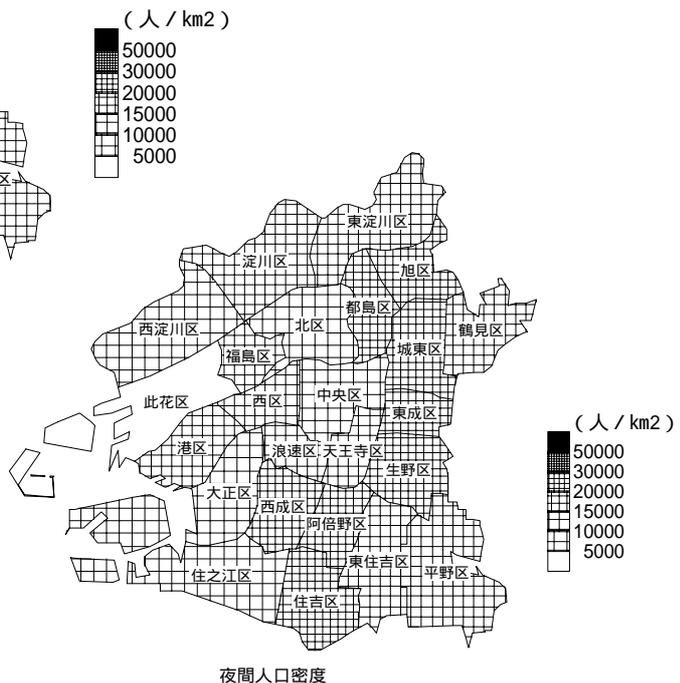
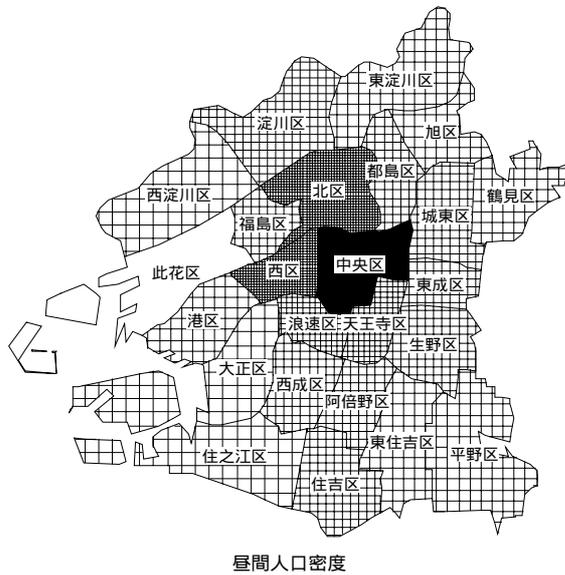
昼夜間人口比率

4 大阪市のデータ 4-5 大阪市の昼夜間人口密度

昼間人口密度は、中心部の中央区(58,997)、北区(42,006)、西区(34,190)が高い。
 夜間人口密度は、各区間の差はそれほど大きくない。



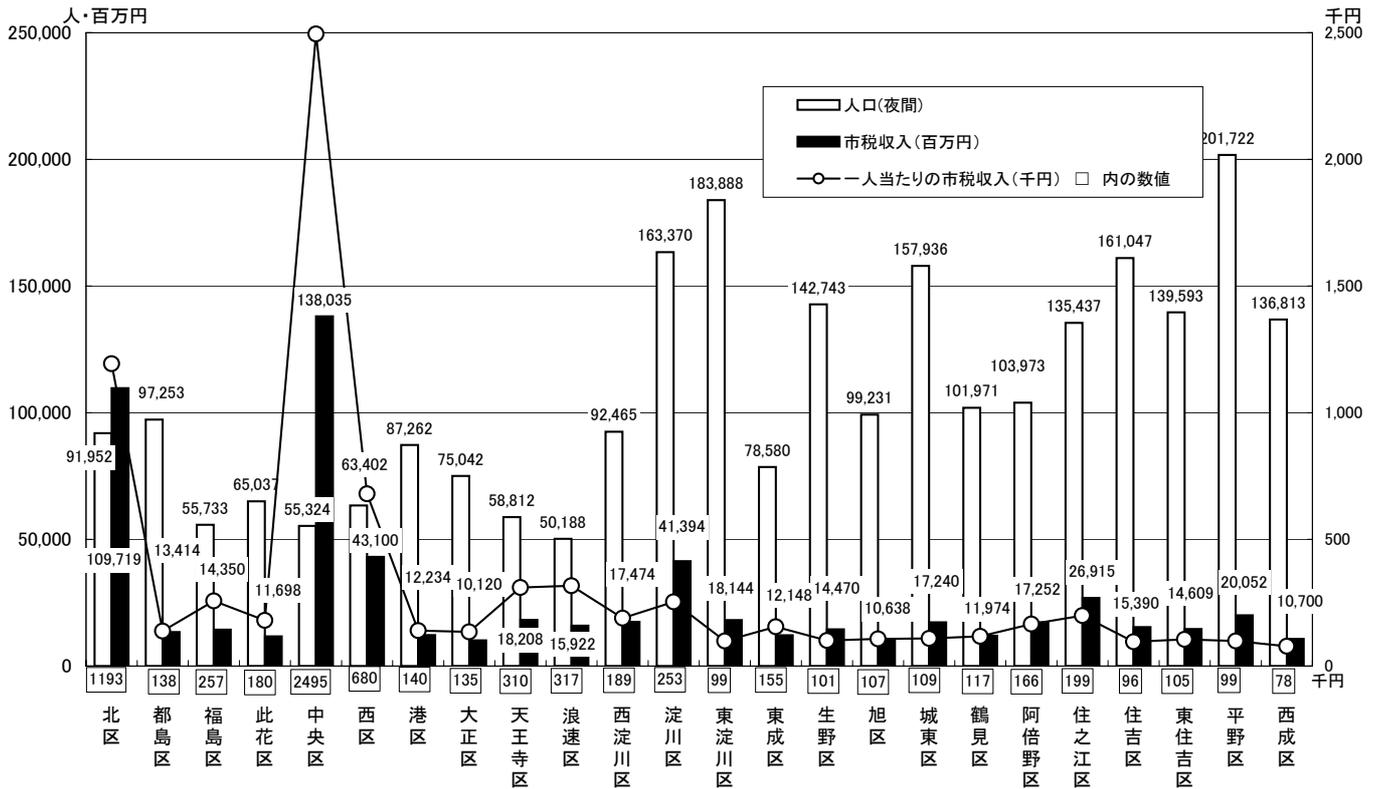
資料:国勢調査(2000年)



資料:国勢調査(2000年)

4 大阪市のデータ 4-6 大阪市の人口と市税収入

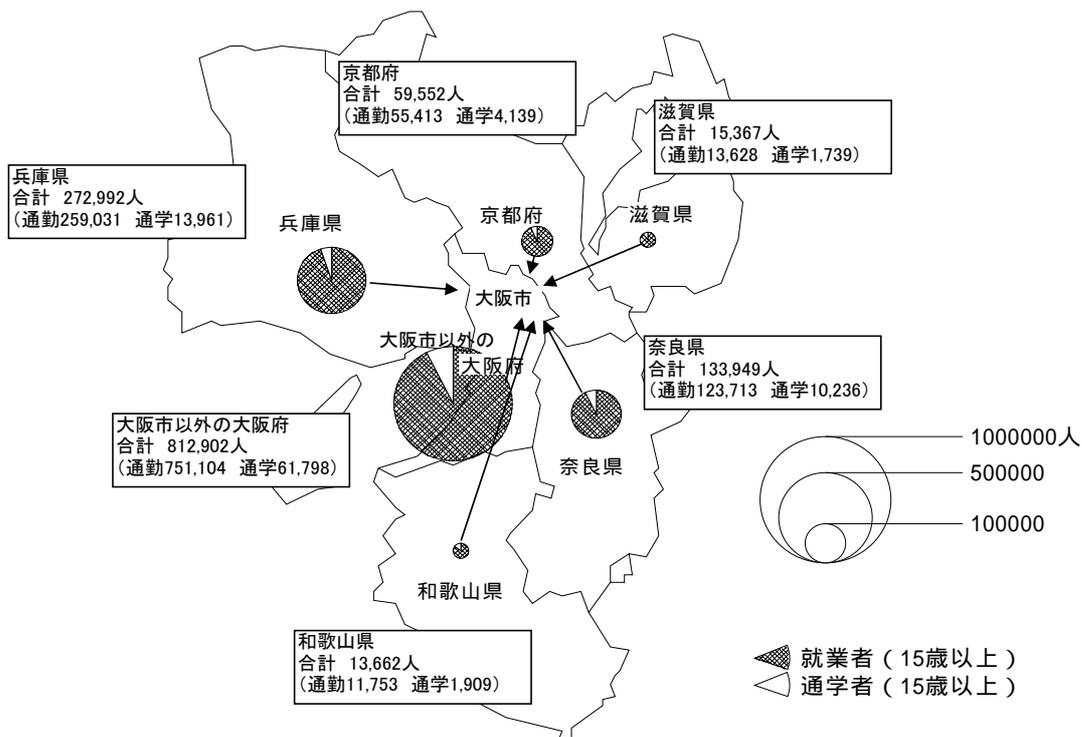
特別区と同様、人口と市税収入の各区ごとの差が見られる。



資料: 国勢調査(2000年)、大阪市データ(市税収入2003年)

4 大阪市のデータ 4-7 大阪市への流入人口(通勤・通学)

大阪市内で従業・通学する人は2,440,452人(従業者2,251,768人、通学者188,684人)である。この内大阪市内に常住している人は1,114,155人(従業者1,020,486人、通学者93,669人)である。大阪府以外からの流入人口は次のとおりである。近県からの流入よりも大阪府内からの流入が多い。



大阪市への流入人口

資料: 国勢調査(2000年)